

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

200号記念

別冊

200号記念座談会

「ほーほーどり」に思う

出席者：島崎純造、首藤美恵子、首藤佑吉、
染谷迪夫、(司会)小玉文夫

スタッフ：猪爪敏夫、佐々木隆、松本勝英



小玉 ご多忙中のところお集まり頂き有難うございます。既にご案内のとおり、会報「ほーほーどり」は次号(2008年1,2月号)で発刊200号を迎えることになり、これを記念して特集号を予定しています。今日は、歴代の「ほーほーどり」の編集や会の運営に活躍されてこられた皆様にお集まり頂き、編集のこれまでの苦労話などを語っていただきとう座談会を企画いたしました。200号が丁度新年号ともなりますので新春放談のつもりで忌憚の無いご意見やお話を伺いたと思います。どうぞよろしくお願いいたします

自己紹介など

小玉 それでは始めに皆さんが当会へ入会された頃の様子など、自己紹介を兼ねて一言ずつお願いします。

首藤(美)入会は1979年7月と記憶していません。7月の定例探鳥会、8月の相模川河口探鳥会、その後の高麗川探鳥会にも参加しました。当時は、早朝や夜中にも探鳥会が開催され、早朝はカッコウ、夜はアオバズクの鳴き声を聞きに我孫子市内を随分歩き回っていました。参加人数は15~20人程度で規模は今と同じでした。ただ、今のような立派な図鑑がなく、指導者は絵本を使って説明されていました。



島崎 私は小学館の「日本の野鳥」(1976.7月初版)ですね。高野伸二氏の原色図版で、解説も充実しており、あまり厚くなくて使いやすい図鑑でした。いまでもクルマの中に置いてあります。(絵本ではなく、「自然観察と生態シリーズ」の一冊です)

小玉 当時の会報を見ますと、市から50万円の補助金があったようですが、首藤(美)会員の参加者が使用する双眼鏡も補助金で購入していました。

首藤(佑)入会は家内からやや遅れて1981~82年頃だったと思う。3ヶ月の出張から帰ってきて家内から進められたのがきっかけである。この会はどのような会なのか頭に浮かばなかったが、鳥見に集中して、それ以外のことは会員同士が詮索しないので、これはいい

会だと思って入会した。当時はいい先生方が沢山いた。たとえば顧問の高橋敏夫さん、会長の坂巻忠雄さん、幹事に中尾照平さんらであった。探鳥会では似ている鳥の識別法を良く教えてくれました。また、会員相互の親睦を深める為に酒を良く飲んだ記憶がある。芋煮会もその延長線上の一つで、今では当会の名物になっている。この芋煮会の幹事を21回やり、最後にやり方を細分化して奉行制を導入し、多くの会員に手分けして参加してもらったのは今では良かったと思っている。

小玉 芋煮会の幹事を21年間も長い間担当されお疲れ様でした。

染谷 最初は日本野鳥の会千葉県支部に1988年に入りやっていました。ある時、県支部の探鳥会が房総風土記の丘で開催され、幹事の大野真澄さんから、我孫子にもいい会があるからと紹介され、直後に入会しました。以前は一人で手賀沼周辺を歩いても鳥の識別が難しく、当会に入会してからはスズメ、ヒバリ、タヒバリの違いを教えてもらった。これが、いま思えば非常に良かった。入会して20年、先輩方がまだ頑張っているの、私も可能な限り会員でいて、色々な活動に参加したいと思っています。



小玉 事務局はなにかと多忙で大変でしょうがよろしくお願いします。

島崎 1979年1月に都内から我孫子に転居して来ました。野鳥観察はその前から多少の経験があり、ひとりで手賀沼や利根川の土手などを歩いていました。はっきり記憶していませんが、間もなく当会の存在を知り入会したと思

ます。知人もいなかったためか8月の「秋が瀬」探鳥会が初参加だったと思います。定例探鳥会は中尾照平さんに誘われて行った80年1月15日が最初で、市役所前での集合写真が残っています。会員同志の付き合い方がサッパリしていて、話題も鳥のことが中心で私としては居心地がよかったです。その後はつとめて参加するようにしました。その後仕事の都合で10年近くあまり出られない時期がありましたが、その間も鳥見だけは続けていました。ここに1981年10月25日現在の会員名簿があります。会員数は138名ですが、およそ8割のメンバーは入れ替わっているようです。私などはこの会を立ち上げた人たちを含む第1世代の会員と一緒に活動できたわけで、先輩に種々教えられ感謝しております。

会報について

小玉 自己紹介を兼ねて入会時期、入会動機、当時の会の様子などご紹介いただきました。今では知ることの出来ないお話など聞かせていただきました。それでは話題を会報へ移したいと思います。「ほーほーどり」は会の発足の2年後の1974年に11-12月号として創刊され、次号2008年1-2月号で200号を迎えることとなります。その間、編集担当者も初代の高橋敏夫さん(～101号)、2代目首藤美恵子さん(～143号)、3代目梅村康之さん(～180号)、4代目(小玉文夫他181号～)と引き継がれてまいりました。これまでの会報にまつわる話、また、今後の会報に望むことなどお願いします。

首藤(美) 高橋さんから引き継いで梅村さんへバトンを渡すまで6年間編集を担当しました。当時は原稿用紙による手書き原稿が主流で、これをワープロで入力し、割付をして印刷屋に出し数度の校正をした。印刷ができてくるまでに住所ラベルを作り封筒を用意しました。この後が大変で、会報を三折りに

して封筒に入れ発送です。発送部数は現在と大差ないため、この時期は、一家総動員で取り組まないと間に合わなかった。出来上がるまで 2 週間は掛かったと思います。

首藤(佑) 会社で残業した後居酒屋への寄り道を断ってひたすら帰宅をせざるをえなかった。

首藤(美) 娘が学生だった頃、試験期間中は応援を期待できず夫婦で徹夜したこともあった。梅村さんへ変わってからパソコンによる編集が導入されて、能率も上がり、発送も中尾さん、島崎さんの両奥様が手伝っていた。

小玉 当時の会報作成には大変なご苦労があったようですね。今の編集体制から比べると隔世の感がします。現在、手書きの原稿で送られるのはわずかで、ほとんどがワードやエクセルで作成されたものをメールで送っていただいています。入力の手間はありません。割付はワードで行ないます。作成された会報の原案を編集委員 6 名で精査し誤字脱字は見逃しません。また、印刷は我孫子市の施設で無料で委員 6 名で行い、発送作業も含めて 300 部を 3 時間程度で行なっています。

首藤(美) 当時は探鳥会の記事のみでなく、広く俳句、短歌、植物にいたるまで掲載していました。探鳥会が現在ほど忙しくなくゆっくりしていて、鳥が現れそうところで鳥が現れるまで待つ、その間は付近にある植物を勉強したりしていた。植物博士が沢山いて、中さん、三神さん、坂巻さんたちからいろいろ教えてもらった。

島崎 探鳥でも「待ち」の姿勢があって、ベテランの指示で座り込んでいるとカラ類の混群がやって来たり、すぐ近くでミソが美声を響かせたり、なるほど感じたものでした。あまり探し回るということはなかったような気がします。鳥も多かったせいかも…。

染谷 今は、写真愛好家が多くデジカメの時代ですから、沢山写真を撮ってということでしょう。従って次から次へと車で移動するようになり、写真は会報に

載りにくいから、そういう点から見れば会報の質の向上については疑問が残ると思います。

小玉 会報への写真の掲載は印刷方法の問題です。会報の印刷を外部の印刷屋さんへ頼めば可能なのですが、予算の問題がありまして思うようには行きません。

探鳥会の話が出ましたが、探鳥会の選び方はどうでしょうか。現在は、年に 2 回前期、後期に分けて幹事会で決定していますが、会報へ予告を出すなどして会員から希望探鳥地を募集するなど如何でしょうか。

首藤(美) 探鳥地選びも鳥が少なくなってきたり難しくなってきた。たとえば、以前は布施弁天に行くとシメ数十羽が地面にいたのがざらに見られたが、今はいない。

島崎 平成 4 年 8 月に初代編集長の高橋敏夫さんが市民講座で行った講演「手賀沼の水鳥たちを見て四半世紀」が収録されている「私が見た手賀沼」という本があります。この中に広い水面にゴマ塩をまいたようにカモが浮かんでいる写真が載っています。手賀沼に浮かぶカモの群（1971 年頃）と書いてある。昭和 40 年代はこれが普通だったので、今はこのような光景は見られなくなりました。

首藤(美) 以前、高野山新田あたりに水田を借り、冬場に水を張り餌を撒いて鳥の餌付けをやっていた頃があった。屑米、パン屑、お茶殻等を寄付してもらい、今の市民農園の近くの小屋に保管していた。水鳥が近くで観察でき評判がよく話題があった。

首藤(佑) 手賀沼の遊歩道ではコブハクチョウが遊歩道に上がってきて、餌をあげている人の手をつつき、平手で頬をたたいたら後ろに下がって頭を下げて「御免なさい」のした等話題が豊富だ。このような身近なエピソードを会報に載せたりして、面白く編集してもらいたい。

小玉 会報が会員のコミュニケーションの場となればと願っています。会報の

「会員便り」はそれを狙ったものです。現在は、ab-birdnet、ab-newsなどのメーリングリストに頂いたものから抜粋して掲載していますが、メール、FAX、葉書等でも結構ですからもっと多くの会員の参加が得られればと思っています。

島崎 会員もいろいろで積極的に参加してくれる人、あまり顔を見せない人などさまざまですが、会報は読まれていると思います。もっと一般会員からの投稿を集めたいのなら、お願いするだけでなく「リレー式」で指名するののも一案ではないでしょうか。

「鳥だより」について

小玉 今回は 200 号記念として、多くの方にテーマを決めて投稿をお願いしましたところ皆さん快く引き受けていただきました。島崎さんの言われるように、ただ「投稿をお願いします」では原稿は集まりませんね。現在の会報掲載の「鳥だより」は紙面の都合で寄せられた全てのデータを掲載できません。

首藤(美)「鳥だより」の掲載基準はどうなっ

ているのでしょうか。例えば、ある鳥を 1 日、1 日見ていると報告してくる人もいますが、この場合同一の個体ではないのか、これは少し行き過ぎと思われるかもしれませんが、1 週間庭に来ていたが 8 日目にはいなくなっていた、というような一過程を報告してほしい。

首藤(佑)鳥だよりの意味は何だろう。当会にホームページが出来ればこれは不用になるのかもしれない。

島崎 「鳥だより」は身近なニュースというより、調査データの羅列のようでなんとなく興味を引かない。掲載スペースも大きすぎる気がします。

小玉 本日は「ほーほーどり」についてご意見を伺いました。このような企画は今回が初めてかと思います。今後の会の運営、とりわけ、探鳥会のあり方、若年層の会員への取り込み、会員相互の研鑽・勉強会など多くの検討課題がありますが次の機会に譲りたいと思います。

本日は、1 時間半の短い時間で、中身の濃いご意見を有難うございました。

「ほーほーどり」200号発刊に寄せて

故渡辺義雄初代会長の夢

畑 幸正

1972 年 9 月 30 日、日本野鳥の会東京支部の上総一ノ宮探鳥会があり、参加したところ故渡辺義雄氏、故高橋敏夫氏、故吉田昇氏が探鳥会に見えていた。高橋氏から我孫子野鳥を守る会を我孫子に設立したことを聞かされて早速入会を約束する。

当時は千葉県には野鳥の会は他にはなかったのと、手賀沼とアオバズクのいる林にめぐまれて仲間も増えて、和やかにバードウォッチングを楽しんでいましたが、渡辺会長はそれだけでは満足できなくホタルの養殖を始めました。

1976 年 7 月 10 日のホタル鑑賞会には約 100 名の参加者、1977 年には 400 名の参加者、1979 年頃には近くで下水道工事が始まり、一寸心配したが、なんとか立ち直ってくれました。樹木の調査をしたときは、一日神社にある古木の根周りを測って歩いたこともありました。

渡辺会長の挑戦することのすごさ。

当時渋谷の南平台にあった山階鳥類研究所、日本で唯一の鳥類研究所で、昭和 17 年開所で建物が老朽化したため、移転先を探しているのを新聞で知り、早速高橋さんと相談して手土産に自宅で取れた卵を持って渋谷まで挨拶に行く。この時すでに東京の八王子市、神奈川県の大磯で名乗りを上げていたので大勢は不利かと思われたが、渡辺会長の真心の交渉で見事我孫子市に誘致が決まった。

この頃より渡辺会長は病に侵されて家で過ごすことが多くなっていた。1984年 3月 24日、山階の起工式が、1984年 3月 16日に渡辺会長が逝去する。

今、この私も渡辺会長が患った病気と同じで歩行が困難で探鳥会はごぶさたしています。
(一日も早いご回復をお祈り申し上げます 編集者)

高橋敏夫さんの思い出

木村 稔

今から 20 年以上前の 6 月の話です。長老の高橋敏夫さんと釧路駅で待ち合わせて二人で霧多布へ探鳥に行ったことがあった。車中では野鳥観察の泰斗である中西悟堂さんとも親交のあった高橋さんに野鳥にかかわる著名人の話を聞かせてもらった。

根室本線「浜中」からバスで霧多布へ。湯沸岬は台地状で海をのぞむ崖沿いの叢に現れる鳥を見ながら 3 キロくらい歩き、灯台の先にあるトッカリ岬に向かう。当時、私は北海道の鳥は馴染みが無くノゴマ、シマセンニュウ、マキノセンニュウなどが珍しかった。目的はエトピリカである。トッカリ岬の先端にエトピリカの営巣する岩があり巣穴から海上へ飛び出して旋廻するところをあわよくば写真に撮りたかった。崖の上の狭い場所にバードウォッチャーが大勢いてカメラやスコープを構えていた。聞けば、一回出ると次までかなり時間が空くという。その通りでエトピリカが現れるまで随分と待たされた。エトピリカはやっと巣穴から出てくると海に向かってピャーと糞をしてから岩礁の上を大きく一回り飛ぶとイベントはあつという間に終わってしまった。ところが東京から来たというグループがその寸前に到着して「やーエトピリカを見た、見た、満足した」といいながらさっさと帰っていった。ついている連中であった。

帰り道、高橋さんと歩いていると車で通りかかった地元の人に声を掛けられた。今日の宿を聞かれ決まっていないうと「民宿を紹介してあげましょう」と車で案内してしてくれたのが琵琶瀬湾に面した「渡辺民宿」だった。飛び入りだったが紹介してくれたひとが役所の方だったこともあり引き受けてもらえた。

夕食後自室でのんびりしていると食堂に来るようにいわれた。行ってみると宿泊客が渡辺さんを中心に集まっていた。この宿では主人と宿泊客が飲みながら交流するのが決まりだそうので肴が用意されていた。ポウルには花咲蟹が山盛りだった。ご主人はかなりの東北訛があつて聞き取れないところもあつたが畑正憲(ムツゴロウ)さんと親交のあることが分かった。大きな飼犬はムツさんから貰った犬だという。郵便受けから新聞を啜ってくるおとなしい犬で後日霧多布湿原を一緒に歩いた。ご主人は私が読んだムツゴロウの本の登場人物であることもわかり興味深かった。浜中の動物王国も近いらしい。

翌日、二人で霧多布湿原を歩き琵琶瀬川沿いでアカアシシギを見ることが出来た。次にワタスゲの群生地を見ながら地元では山と言っている森に入って歩いた。アオバトの声を始めて聞いた。北海道では平地でコマドリなども見られるのが面白い。木々の間から空を飛ぶカモメたちが見える。この日、宿に帰って報告すると渡辺さんによく歩いたなーと言われるほど歩いた。高橋さんは気合で歩いたと言われた。実は高橋さんは以前結核を患って片肺を手術している体だったのだ。しかし、スキーや登山を楽しんでいた若いころの自信が元気を出

させるのだろう。自分が同年代になってみてあらためて強いひとだったと感心する。

宿のご主人は漁師を兼ねていて漁船を所有している。漁師は海にあるものを探ってくるだけだから楽な商売だと言っていた。宿泊人サービスで「ムツゴロウの無人島記」に出てくる湾内にある嶮暮帰島へ船で送ってもらった。迎いの船が来るまで高橋さんとミニ無人島気分を味わった。漁期だけ使う番屋とムツゴロウ一家が暮らした木造漁船があるだけで灌木と野草に覆われた島だった。コシジロウミツバメは見る事が出来なかった。

宿泊は短い間だったが面白い経験をしたせいで以後何回かこの民宿を利用することになった。霧で何も見えない日もあった。民宿の庭にムツさんに貰った馬がいたこともあった。こんぶ漁に出る船の手伝いをしたり船上から泳ぐエトビリカを間じかに見せてもらったりした。今思い出すのは広い湿原を高橋さんと二人で延々と歩いた記憶である。

付記：高橋敏夫さん受賞暦

1985年 千葉県環境省受賞

1989年 環境庁長官表彰

1992年 叙勲

2000年 高橋さんの卒寿を祝う会

『ほーほーどり』とあの頃と

小野勝義

会報に載る探鳥会の参加者として、私の名前が最初に出てくるのは、1978年1,2月20号です。その探鳥会は前年、1977年（昭和52年）10月10日の谷津干潟探鳥会ですから、その頃が私の入会の時期だったかも知れません。だが、会の探鳥会に参加したのはそれより前だった記憶があります。それがいつだったかははっきりしませんが、新聞記事を見ての参加であることは覚えています。2回目の参加も新聞の記事によりましたが、はっきり覚えているのは入会を申し入れた時、幹事の中尾照平さんに、もう少し探鳥会に参加してからにしましょうと云われたことです。おおらかな会だなア、という印象が強く残っています。

手帳サイズのメモ帳をフィールドノートにして、今でも鳥見の簡単な記録をつけていますが、今使っているのは14冊目です。第1冊の一番初めの記事は1978年8月13日の手賀沼カウント記録です。今回この文を書くに当たって、それ以前の記録がないものか、やっと探し出した古い手帳に鳥の名前を記したものを見つけました。それには場所や年月を特定できる記事がありません。しかし、そこにトモエガモ、ミコアイサ、ツルシギ、イソシギなど、今ではなかなか出会うことが珍しい鳥の名前が記されていました。そして、その手帳に書かれた鳥のリストと、全く同じリストを会報のバックナンバーから見つけました。創刊号からの会報は、いつの頃だったか会計と会報の発送を担当していた中尾照平さんからいただいて綴ってあります。それは会報の15に載る1977年1月15日の手賀沼探鳥会だったのです。そこに私が参加者として載っていませんが、新聞記事を見て参加した何回かの探鳥会の一つだったことは間違いありません。そして、あの頃の手賀沼の鳥の豊かさを改めて思い知らされました。

あの頃、私設探鳥会と称して例会とは別に探鳥会が行われました。1978年10月7,8日の伊良湖岬もそのひとつです。東京駅発23時28分の大垣行き最終列車で豊橋まで行き、夜明け前にタクシーで岬まで行きます。当時夜行列車は12時を過ぎると車内の明かりを暗くし、なんとかまどろむことが出来ました。昔の夜行列車は旅人に優しい心配りがありました。それが翌年の大垣行き最終は湘南型の電車になり、車内の明かりが煌々として眠れなかったことを思い出します。この年の大垣行きが最後の夜行列車だったのではないのでしょうか。その後の会の伊良湖探鳥会は、何回か大垣行き最終の湘南型電車で行きました。

鳥見行では思い出が限りなくあります。夜の高尾行もその一つです。ブッポウソウを見たのは高尾山でしたが、それがいつだったか記憶を確かめるのに『ほーほーどり』で確認しました。1978年6月4日の探鳥会でした。ブッポウソウをお目当てに、翌年79年6月にも高尾山探鳥会を行っています。初めてアカショウビン、サンコウチョウの声を聞いたのも、この高尾山の探鳥会でした。

「ヨルタカ」と仲間うちで称した夜の高尾山探鳥行は、東京駅を最終の高尾行きに乗り、深夜の山道を登るのです。午前3時頃山頂近くのケーブルカー駅に着き、そこで夜の明けのを待ちます。その間、近くで、そして遠くで鳴くホトトギス、ヨタカ、ツツドリ、フクロウなど夜の鳥の声を聞きます。やがて空がかすかに白々とし始めると、小鳥の声の一つ、二つと聞こえてきます。いつの間に夜の鳥の声が消えたかと気がつく、小鳥の声はだんだんと数を増して、遂に小鳥たちの大合唱になります。ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ウグイス、ホオジロ、そしてキビタキ、センダイムシクイなどなど、夜の鳥と昼の鳥の鳴声がかロスする、その声の移り変わり、次第に明るくなる周囲の景色の中において、眼と耳に伝わる変化が大地の動きをさえ感じるほどの感動でした。

この感動の音をなんとか録音したいと思い立ち、大型集音器を傘で作りました。折りたたみ式の集音器です。鳥の声の録音には、周りが静かでなければなりません。人の話し声は雑音になってしまいます。そのため、一人で夜の高尾山に寝袋を持って登りました。ところが、その寝袋の寝心地のためか、眼が覚めた時は明るくなって、小鳥の合唱はすでに終わっていたという失敗を思い出します。夜明けの鳥の声を録音するため、夜の高尾山には何回か一人で登っています。

私たちは普段、音を選択して聞いています。しかし録音機はすべての音を拾ってしまいます。その後、ウトナイ、ポロト、伊豆沼、日光、戸隠、軽井沢、丹沢、富士山五合目、本栖湖、などに集音器と録音機を持って出掛けていますが、どこに行っても後で聞いたテープは、自動車の音で失望しました。

録りためた鳥のテープは未整理のままになっていますが、記憶の中のお宝は、87年6月の丹沢探鳥会で録音したコノハズクと、韓国で録音したキタタキです。キタタキの腹に響くようなドラミングは実に迫力があります。この韓国探鳥行には島崎純造さんも一緒でした。

今回創刊号からの『ほーほーどり』をひもといて、30年昔のあの頃にタイムスリップしたのでした。『ほーほーどり』から見つけた大勢の懐かしい方々のお名前とご一緒した探鳥会の数々。初代会長の渡辺義雄さん、2代目会長の坂巻忠雄さん、高橋敏夫さん、中尾照平さんご夫妻、中ひろしさん。皆さん亡くなられてしまいましたが、そのほかの多くの方々と、探鳥会のひとつひとつを思い出し、懐かしい思いに浸りました。

私の野鳥観察の原点は我孫子

ミコアイサの感動をもう一度

戸谷輝夫

早いもので、もう20年も前のことになります。それまでは取手から都内への通勤で我孫子は単なる通過駅でした。帰宅も遅く地域とのつながりも今一步の状態、何となくですが物足りなさや問題意識を持ち始めた頃でした。知人の勧めもあって、昭和62年(1987年)4月の探鳥会のときに、初めて参加させて貰ったことを思い出します。バードウォッチングとは一体どんなものなのだろう・・・と興味半分・暇つぶし半分で出掛けた私は、そこで大きな驚きと感動を覚えたものでした。

こんな身近な場所で、こんなに自然が、こんなに野鳥たちが生きていたのか！に胸を打たれ、そして初心者に対する我孫子野鳥を守る会の方々の、温かい包容力・人間性に触れ、う

ん、これだな！とひらめいて、その日のうちに入会手続きを済ませたものでした。たまたまその日は年次総会の日にもあたり、高野山香取神社の集会所を借りての会合にまで、ずうずうしく参加し、そこであの高橋敏夫さん・坂巻忠雄さんはじめ、皆さんの熱心な意見交換に耳を傾けながら、これからの会活動への期待に心を躍らせていました。

先日「ほーほーどり」を紐解くと、第 76 号に初めて私の名前が載っていましたが、その頃の手賀沼カウントでは、2,000 羽前後のカモ類が記録されています。特に私のお気に入りだったミコアイサも 50 羽を越えていました。彼等はいったい何処へ行ってしまったのでしょうか。

その後、地元の取手での仲間づくりや、仙台転勤などもあって、しばらく我孫子の探鳥会への参加が滞っていました。先日（平成 19 年 11 月）の渡良瀬遊水地探鳥会にひさびさの参加をしました。懐かしい顔、新しいお仲間の顔、皆さんの温かい笑顔に迎えられ、あっと言う間に溶け込んでいく心地よさを感じました。そうです！そうです！これこそが私を野鳥観察の世界に誘い込んでくれた我孫子野鳥を守る会に、昔から息づく伝統の包容力でした。

願わくば、もう一度あのミコアイサの群れを、皆さんと一緒に眺めてみたいものですね。「潜った！」「出た！」「あっあそこにも！」・・・いずれは手賀沼が以前のように、彼等の気に入る自然へと戻っていくことを期待しています。

いつから？の酒団体に？

松田幸保

私は会が発足して間もなく入会しているので、今では五本指に入るくらいの古参会員ではないかと思う。もともと鳥きちというほどではないところに、勤務・家庭環境の変化で何年間も行事に顔を出さない、いわゆる幽霊会員の時代があった。それが再び顔を出すようになったのは、行事案内にヤマセミという文字が載っていた茨城県の犬子に行く探鳥会だったと思う。

復帰したときに、二つのカルチャーショックがあった。一つは「手賀沼定例探鳥会」が自家用車分乗で沼南側から見ようになっていたこと。もう一つは酒飲みの会になっていたことだ！！ブランク前にも一泊探鳥会はあり、往復は公共交通機関利用という面もあったが、宿にまで酒を持込んで飲んだ記憶がない。ある時、富士山御中道探鳥会で奥庭荘に宿泊した。全員がほとんど酒を飲まなかったのも、故坂巻会長（当時の会長は初代渡辺さん）がとまどった表情で“この会は地味ーな会ですからね”と言っておられたのがとても印象に残っている。あとで坂巻さんは超酒豪であることを知った。

初期の会員はアルコールに弱い人もいたが、習慣的に酒を飲む人が少なかったのではないかと思う。私のブランク中以降に酒飲みが続々と入会し、観光バスによる探鳥会が拍車をかけたことによって現在があるように感じる。時代の波か、私もいつの間にか郷に入っては郷に従って宴席に最後までいるようになり、バスの中でも飲むようになってしまった。

年末のビッグイベント「芋煮会」のルーツも、坂巻さんが山形県に行った時に仕入れてきて、感激して話されていたのを思い出します。

想　い　出

西巻　実

私が入会したのは昭和 62 年(1987 年)1 月でした。その前年の 10 月に新潟県長岡市から我孫子市に引越し、ようやく落ち着いた頃でした。その 12 月に飛び入りで定例探鳥会に参加

し、翌月に入会したわけです。そのときに受け取った「ほーほーどり」が No.74 号です。それから 200 号まで丁度 21 年です。当時の会長が坂巻さん、副会長が高橋さん、事務局長が中尾さんです。お三方とも故人です。

初めての探鳥会で中尾さんがカムリカイツブリを望遠鏡で見せてくれました。多くのカモたちより大きく、白い首を伸ばしたカムリカイツブリが印象的でした。「珍しいよ」の中尾さんの声が残っています。いまより百倍も鳥は多いですがカムリカイツブリは少なかったと思います。つづいて見せてもらったミコアイサの美しさに大感激でした。坂巻会長の説明でユリカモメは嘴と足が赤いと聞いたのに、黄色い似た鳥がいるので坂巻さんに聞くと「あれもユリカモメだ」と答えます。いろいろあるんだ、と分かります。近くの木にシジュウカラが来ました。望遠鏡で見せていただくと、長岡で白黒の鳥とまるで違い、背中の黄緑色のぼかしに驚きました。

75 号に私の小文が載っています。たぶん新人に原稿を命じられたのでしょう。題して「探鳥事始」です。今見返すと長岡での鳥の様子が書いてありますがつづいて初めての探鳥会でのミコアイサとシジュウカラとの美しさが書いてあります。最初の「感激」が「一生もの」になりました。

遠い思い出

首藤佑吉

会報 200 号と聞いて隔世の感を抱く。1 号は 30 数年前の発行か。初代の渡辺会長がガリバン刷りで発行したと知らされ、往時のご苦労を偲んだことがある。

私の入会は 1982 年と思う。その頃私は、日本海沿岸にある 3ヶ所の原子力発電所にシステムの一部を納入し、その稼働立ち上げと運転指導のため 3ヶ月間長期出張していた。帰宅後、妻から「我孫子に野鳥を観察する会があり探鳥会に参加してみたら興味がわいたので入会した」と聞いた。後で耳にした話であるが当時の幹部さん達（坂巻会長、高橋顧問、中尾会計幹事）が若い？女性の入会を大いに喜ぶ一方、「すぐにやめるさ」と悲観的に呟いていたそう。妻の話聞いて私は野鳥を見ると言う行為がすぐには理解できず自分も一度参加して見ようと思ったのが長い長い鳥見の始まりとなった。

何度か参加するうちにこの会の良さが分かってきた。和気藹々の付き合いでありながら個人の「バックランド」を全く詮索しないのである。だから必要がなければ姓名以外は何にも知らないし知ろうともしない。素晴らしいことだと感じた。この特質は今でも継承されているように思う。ある探鳥会に大学教授と自称する男が参加した。彼は私に纏わり付きながら「私は鳥に興味はないが鳥を見ている人間に興味がある」と宣うた。詮索されては堪らない。私は「貴殿の如き邪心の持主はわが会に不適格である。今後は参加しないことを望む」と伝えた。その後彼を見ていない。

その頃の宿泊探鳥会で目的地に向かうバスが不意に停車し中尾さんが「おい、首藤」と呼び寄せ何がしかの金をくれる。バスは酒屋の前に止まっているので酒を買ってくるのだと直ぐ分かる。現今、1800mm と言えば望遠レンズだと思うが当時は一升ピンのことであった。1800mm が何本あるなどと喜んだものである。酒も沢山用意したが鳥も豊富であった。奥日光だと記憶しているが、200 羽を超すハギマシコの群れが一斉に畑からふわりと飛び立ちまたふわりと畑に降りる。さながら色鮮やかな絨毯が飛ぶようであった。

芋煮会は入会間もない頃から年間のメインイベントの一つであった。今はキャンプ場で開催しているがその前は林の中の樹に囲まれた空間を利用した。会員の奥様や子供さんも参加し家族的な年末行事であり皆さんが楽しみにしていた。しかし芋煮会幹事を命じられた私と妻は全てを切り盛りしなければならず毎回大苦勞であった。21 回続けて現在の全員参加形に

移行し有能な諸兄のご尽力を得て当会の歴史的イベントが継続できている。幸い女神のご加護を得て、担当した 21 回一度も雨に降られたことがない。苦勞はしたが今では楽しい思い出になっている。

今後も素晴らしい会員皆さんとの交流を続けさせて頂き、なにがしかの貢献をしながら自分の人生をよりハッピー - なものにしてゆきたい。

ほーほーどり 200 号発行について（一言）

染谷迪夫

私は我孫子野鳥を守る会に入会したのが平成元年でしたから、200 号が出るのは平成 20 年 1 月ですので、20 年間在籍していることとなります。平成元年のほーほーどりの号数は 80 号代ですから、考えてみるとその間、120 号も発行されたわけで、随分長いこと、当会に在籍しているのですが、ちっとも時間が経ったとは思いません。自分が能天気のせいもありますが、入会当時は回りが殆んど先輩で野鳥のこと、人生のこと（いまでもそうですが、当時は人生の達人がごろごろしていました。）をいろいろと示唆や教示を受けました。（いまでもそうですが、日頃の定例や泊まりの探鳥会で一杯酌みかわしながらです。）

20 年経った今でも、周りは殆んど先輩方です。先輩方がいかに元気でられるかの証明です。私も先輩方に習って元気で会に参加したいと思います。ほーほーどり 300 号まで、周りのことを考えながら元気でいたいと思います。

我孫子野鳥を守る会入会当時の思い出・現在

鈴木静治

2008 年 1-2 月号が記念すべき 200 号になりますが、2 カ月に 1 回の発行として単純計算しても 33 年間続いてきたことになり、「倦まず弛まず、継続は力なり」、編集に係わられた諸先輩および投稿会員の地道な努力があってはじめて出来ることと思います。

さて、私はどうかと考えたところ、2004 年 1 月 25 日市民手賀沼探鳥会に初めて参加し、間野さん、諏訪さん、佐々木さんに、探鳥のことを教えて頂きました。この時、沼には鴨類がいましたが、最も印象に残るのは、手賀沼遊歩道の落葉した桜の枝にコゲラが現れ、間近で色々なポーズを見せて歓迎してくれ感激したものでした。そして、次の 2004 年 2 月 8 日の定例探鳥会に参加し、晴れて「我孫子野鳥を守る会」に入会することが出来ました。

入会時の「ほーほーどり」は何号か、会報のファイル調べてみますと、176 号(2004 年 1-2 月号)で、編集者は、故梅村康之さんでした。入会以来本会の行事には、やむを得ない用がある時を除き参加するようにしています。まだ、入会以来 4 年しか経っていない鳥でいえば卵、又は雛の駆け出しですが、鳥好きの皆さんと時を過ごしていると、会社勤めと違い、心豊かになる何かを得られるような気持ちになれます。会員の方々には鳥を観る他に、カメラで写す、声を聴く・録音する、鳥の羽を観察する、巣作り・子育ての観察、植物・樹木の花・実との関係、生息環境、季節と渡り鳥、毎日定点観察、国内にとどまらず海外の探鳥等々多方面にわたり興味を持った方がおられ、特に日帰り・1 泊の探鳥会に参加する時に色々教えて頂き感謝しています。

ところで、私は子供の頃から花、蝶、動物が好きでしたが、信州大学在学中の初夏、生物クラブ主催の戸隠探鳥会に参加したことがあります。戸隠の宿坊に泊まり、夜明け前に起き昼まで探鳥し、色々鳥の鳴き声と名を教えて頂いたのですが、結局ウグイス、カッコウしか

覚えていなく、鳥は難しいと思い、30-40年間野鳥とは縁がありませんでした。

我孫子布市佐平和台に居を定めて、23年になります。10年前より運動不足解消兼テニスの準備運動で利根川堤防上の遊歩道を朝、時々ゆっくりランニングしますが、春から初夏にかけて堤防に行く途中の竹藪、利根川河川敷の葦原に住むキジの家族に出くわすようになり、まず派手な雄に地味な雌・幼鳥のキジに興味をもちました。

次に、手賀川堤防上の遊歩道で、水色・紺色・柿色でキラリと光るカワセミをみつけ感動したものです。しかし、300mm望遠で写真をとった結果なんとマッチ棒の球部のような小さなカワセミが写っているだけで、他の人の感動を伝えることは出来ませんでした。

2003年に日本野鳥の会に入会し、鳥に興味を持ち始めた頃、広報あびこに2004年1月25日の市民手賀沼探鳥会の記事が掲載されていたので、「キジ、カワセミだけでなく探鳥会に行ってもっと多くの鳥を覚えたら」という家族の勧め、2-3年後の定年後、土・日に布佐平和台テニス倶楽部で過ごす他の趣味も持てればという私自身の希望もあり、探鳥会に参加し、本会に入会したものです。

最近の本会の行事に参加の他には、朝メジロ、ヒヨドリに蜜柑を、キジバトには玉蜀黍を主体にしたハト用の餌、シジュウカラには殻付ピーナッツ、スズメ・アオジにはアワ・ヒエを餌台に置き野鳥が庭に来るのを楽しんでいます。定年後は週3日(月・火・水曜日)再就職先へ通勤で乗車する新木駅のプラットホームで5-10分間、前の農家の畑・林に来る鳥の姿・鳴き声を楽しむのが日課となっています。2-3年前(定年前)は朝、東京駅で降車し、皇居の外堀の馬場先濠、日比谷濠で、特に冬はキンクロ・ハシビロの中に混じるミコアイサ、カワアイサを観察し、更に日比谷公園で探鳥し、霞ヶ関の会社まで行ったものです。2-10カ月前(再就職後)の昼休みには小石川後楽園の年間パスを購入し、毎週散歩がてら探鳥しました。丘・林・田・池ありの中国風庭園のため、何時も10-20種の鳥を観察できました。カワセミ、キセキレイがみられたこともあります。ここ2-3カ月(再就職後)は勤務地変更のため、昼は上野・不忍池で毎週、鴨類を観察しています。

日本野鳥の会の鳥のCDに「鳥の鳴かない日はない」というナレーションがありますが、まさにその通りで、私の生活から自然、花、鳥等を抜きにした生活は考え難くなっています。今後、鳥の鳴き声を少し覚えよう、鳥の習性をよく観察してみよう、都心の探鳥もしてみよう、シベリア・日本・東南アジア・オーストラリアを移動する渡り鳥の観察をしてみよう、軽量・防寒・防水抜群の羽の組織・構造を勉強してみよう等々考えています。また月に2-3回有楽町のさえずり館に、鳥を含む自然関連の講演会・セミナーに行っています。

なかなか何事も一朝一夕には出来ないと思いますが、会員の皆さんの参加型の会報「ほーほーどり」同様何事も継続することが大切と思う今日この頃です。

データベース裏話

赤尾 完

我孫子野鳥を守る会の20周年記念の「手賀沼の鳥」編纂のお手伝いをしてみて、会報「ほーほーどり」に掲載されている観察記録の多さに驚きました。

当時の飯泉副会長がこれらの観察を克明に記録しておいでだったのにも驚きましたが、この記録を誰でも自由に使いまわすことができたらいいなと思ったものです。そのためには、きちんとした記録形式に従ってこれらの観察記録を収納したデータベースを作ることだと考えました。

このデータベースを配布してもらった人は、だれでも自由にデータの山に分け入って、さまざまな発見や研究ができるわけです。しかし、記録形式は独りよがりのものではないませ

ん。使う人だれでもが納得して使えるものでなければいけません。ですから何回も何回も作り直して飯泉副会長に見ていただきました。

パソコンもいまではウィンドウズですが、当時はNECのPC9800が全盛で、ソフトも1-2-3が汎用ソフトでした。この1-2-3というソフトは、表計算もグラフもデータベースもできる優れものでしたが、値段が10万円近くもしていました。これを秋葉原で6万3千円で買うことができ大喜びしたものです。

パソコンの裏側に仮想メモリのボードを差込み、苦心してコンフィグ・シスを書き込み、1-2-3をインストールしました。この1-2-3で作った表を、14インチドットインパクトプリンターで印刷し、フロッピーディスクと共に封筒に入れて、何回も飯泉副会長に郵送しました。その度に飯泉副会長が添削してまた送り返してくれるわけですが、あんまり何回も繰り返すものですから、飯泉夫人はさぞかし呆れたことだろうと思います。

そのころの1-2-3は扱える表の行数が少なく、鳥の観察件数が3万件を超えることが眼に見えており、カード式データベースソフトでも扱える件数は3万件が限度でしたから困ったなと思っていたら、やがてウィンドウズの時代となり、エクセルという強力なソフトが現れて助かりました。

エクセルならパソコンを買えば必ずついてくるソフトですから、これでデータベースを作っておけば誰にでも使うことができるわけで、野鳥観察記録データベースを思いついた趣旨にぴったりというわけです。

そんなこんなで、データが3万7千件を超えるころには、私も年をとり眼もかすむようになったので、田中さんをお願いして交代していただくことになったのです。

先年「手賀沼の鳥」を編纂するにあたって、鳥類目録や月別観察頻度の作成にデータベースが役立つことができたのは望外の喜びでした。

データベースを継続することは非常に面倒なことで、担当者はもちろん、観察記録を報告する人も、決められた形式を守るなど面倒なことです。これを使う段になるとたいへんに便利なものですから、どうか長続きさせてくださるようお願いいたします。

鳥便りの担当者から

諏訪哲夫

みなさん、こんにちは。会報の鳥便りを担当している諏訪です。日頃は会報の鳥便りをご覧いただき有難うございます。

200号という節目の会報なので少し鳥便りについてPRさせていただこうと思います。会報の鳥便りは毎回みなさんから寄せていただく沢山の見聞きした鳥情報の中から我孫子野鳥を守る会が定めた一定の掲載基準に従って抽出し、それを会報に載せています。

みなさんからの鳥便りの投稿は原則として一定のフォーマットに従ってメールでデータベース担当者（田中功さん）に送っていただくことになっています。随時みなさんから寄せられる鳥情報は2ヶ月分を田中さんが集約して諏訪に送ってもらい、私が掲載基準に従って抽出し会報に載せるという仕組みになっています。

2ヶ月間にみなさんから寄せられる種数は延べ500種から1,000種に及ぶ膨大な数です。掲載基準に従って掲載される以外の情報はすべてデータベースに収録され保存されています。どのような掲載基準によって抽出しているかということになりますが相当ボリュームがあるのでここに載せるのは無理ですが簡単に言えば手賀沼周辺では比較的数量が少なく珍しい鳥ということになります。そのほかに初認、終認とか初鳴きとか絶滅危惧種とかの要素も加えて抽出しています。例えば今回の鳥便りではカモ類を沢山取り上げていますがカモ達の手賀沼への飛来時期をお知らせするために取り上げています。

手賀沼周辺では沢山の野鳥を見聞きできますが実際にどのような鳥達を見聞きした情報が寄せられているのが最近1年間分を調べてみました。その数は実に146種もありました。手賀沼周辺が野鳥の宝庫ということがよくわかります。参考までにこの1年間にみなさんから寄せられた野鳥の種名を載せましたのでご覧下さい。

これをご覧になって自分も鳥便りを投稿したいと思われる方は諏訪までご連絡下さい。

みなさんから寄せられる鳥便りは我孫子野鳥を守る会の財産として残っていく貴重な資料となります。今後も鳥便りにご協力をお願いします。

「この1年間に投稿された野鳥の種類」

カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウ、コブハクチョウ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、サシバ、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、トビ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウ、キジ、クイナ、バン、オオバン、タマシギ、コチドリ、イカルチドリ、ムナグロ、ケリ、タゲリ、キョウジョシギ、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、エリマキシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、オグロシギ、チュウシャクシギ、タシギ、オオジシギ、セイトカシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、シロカモメ、ウミネコ、アジサシ、コアジサシ、シラコバト、キジバト、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、コミミズク、アオバズク、フクロウ、アマツバメ、カワセミ、アリスイ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、イワツバメ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、キレンジャク、ヒレンジャク、ミソサザイ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ノビタキ、イソヒヨドリ、クロツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、オオセッカ、コヨシキリ、オオヨシキリ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、クキイタダキ、セッカ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ、クロジ、オオジュリン、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、ウソ、コイカル、イカル、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、コクマルガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス。 以上146種

うらやましかった事

西巻 実

11月17日に水戸市大塚池に行きました。この池は小さいけれどカモたちが多く、市民たちが鳥に親しんでいる様子がとても感じられる池です。千波湖も近くコクチョウも居ます。訪れたときはヒナを一羽連れた親が、近くの民家の家の中からの餌をもらっていました。オオハクチョウも多数いました。

公式に餌をやっているようで、市民も訪れて餌をやり、鳥と親しんでいます。ハクチョウも含めカモたちも市民を恐れず、池の縁を市民が通っていますが、その舗装道路を越えて芝生でヒドリガモが草を食べ、コクチョウが休んでいます。

餌で鳥たちを集めているのは分かるのですが、市民と鳥との交流を見るとうらやましくな



ってきます。我孫子には鳥の博物館があり、山階鳥類研究所があります。餌を撒いて鳥を集めることの是非もわかります。でも、うらやましいことは変わりありません。「手賀沼に鳥を」をもっと議論し行動しなければなりません。

「ほーほーどり」会報史

田丸喜昭

我孫子野鳥を守る会は、1972年3月に設立され、会報ほーほーどり第1号(1974年11-12月)が発刊される以前、1972年より手書きの会月報が、統一されていない文構成で発刊されていました。これらの記録から1972年度から2002年度までの抜粋をを下記のように選んで歴史を振り返ります。

毎月の手賀沼定例探鳥会以外の探鳥会やその他の行事を年度別に記しました。会の歴史的発展の中で、活動内容が幅広くなってきたのが、良くわかります。現在も、会員である方々の探鳥会等への初参加の年度も取り上げてみました(敬称略)。会長の新年の挨拶は会自体の活動や周囲の状況、環境問題、今後の会の進む方向などが簡潔にまとめられていて、会の歴史が理解しやすいと思います。これらと特別な記事には会報の号数と発行該当月を入れて記録しました。

1972年(月日不詳)

10月8日探鳥会ご案内 渡辺義雄

午前9時市役所玄関前集合 正午解散 シベリヤ方面から鴨達が渡って来ます。シギも旅鳥として羽を休める季節です。さあ手賀沼をじっくり観察してみましょう。そして12月頃には白鳥も?これから2月にかけて冬鳥がたくさんみられます。手賀沼に限らず茨城、仙台方面も計画中です。

1972年初参加者：畑幸正、松田幸保

1973年

ハクチョウ(オオハクチョウではない)に給餌

總會

香取神社社務所、弁当持参、茶は用意

香取神社のアオバズクの声、ホーホーが聞こえる

プロミナ4台整備して提供

1973年行事：新年会(高野山香取神社社務所)、伊豆沼探鳥会

1973年初参加者：飯泉仁

1974年

No1(11-12月号)

会誌の発行にあたって(我孫子野鳥を守る会会長 渡辺義雄)

我孫子野鳥を守る会が誕生したのは2年前の昭和47年3月です。はじめは会員も8人で

したが、現在は、100名をこす大世帯となりました。この間、毎月恒例の探鳥会を催し、会員相互の親睦も深まってまいりました。私も皆さんと共に歩き、鳥の名前、種類、習性などを学び野鳥に対する興味は、ますますつのっております。さいわい我孫子は自然に恵まれ、皆さんの御協力もありまして、その成果はあがり、四季折々に渡り鳥が飛来し、あの美しい姿がみられ、いとしい声もきかれるようになりました。また我孫子市文化団体の一員としてその活動も認められ、48年度は市より補助金50万円が交付されました。此の貴重な補助金の使途につきましては、幹事諸兄と協議し、プロミナ4台、1000m写真機等の備品購入、ホテル池の整備、養殖等にあてております。近郊都市我孫子の開発が進むにつれ、自然の森は、失われつつあります。年々汚れていく手賀沼。そして、どんどん埋められられていく田んぼに、私は何か不安と恐ろしさの念をいだかずにはいられません。このままでいったらいったい手賀沼は、鳥達は、蝶は、どうなってしまうのか。想像しただけでも寒けを覚えます。一般的に申しまして、人口増加、市の発展と自然破壊は平行していくのがあたりまえのこととされているようです。しかし私達はこのまちがった考えを否定し、その難問を何とか自分達の手で解決していかねばならないのです。けっしてそうではないことをこの我孫子の地で証明していかねばなりません。自然と人間は一体です。切りはなすことは出来ません。自然の恵みの中にあつて、人間は、心の安らぎを感じ、豊かな気持を持ち、純粋にもなつていけます。私達は、ここでもう一度、昔の我孫子を再現しようではありませんか。手賀沼周辺には、きれいな小川が流れ、うなぎ、どじょうなどが泳いでおりました。山あいの清水には、小さな沢がにが、遊び、沼は底までみえました。沼辺の田んぼには蛭とびかい、菜の花が咲き乱れ、蝶やとんぼがとびまわりそれはのどかな田園風景でした。この貴重な自然の宝庫を守り、花を植え、木を増やし、鳥をよび、豊かな、我孫子を作りたいものです。(後略)

ほーほーどり(渡辺藤正 我孫子市長)

子供ごころにはなんとなく怖かった。結婚したばかりのころ、今の緑保育園の前に住んでいたの、香取神社の大木から夜になると「ホー、ホー」という声がきこえ、都会育ちの妻が無性に淋しがった。これも今ではなつかしい語り草になっている。鉄とコンクリートの都市化がすすむ今日、「ホー、ホー」の声を聞くことはほとんどない。けれども、野鳥を愛する仲間たちの協力を得て、我孫子の自然、文化財を保護したい。

1975年(No2~No7)

No2(1-2月号)

手賀沼へ水鳥を求めて(畑幸正)

私は水鳥が好きだ。よくシギ・チドリ・カモを見に行徳の新浜へ探鳥に行ったが、そのうちに埋立てがはじまり、ダンプカーが砂埃を上げて通るようになり私は嫌気をさしてどこか静かな探鳥地はないかと地図をひろげて探したところ、手賀沼が、まず私の家から行きやすかったので、43年10月26日、今、私は手賀沼へたぶんカモ達がもう渡って来ているだろうと心はずませて、早朝まだ人通りの少ない道を一、観察道具をひとそろい入れたルックザックをしょって歩いていて。まもなく手賀沼に近づくと、水面を這うように、朝靄がただよっている中から、オナガガモの、ピッ・ピッ・と鳴く声、又、マガモのガー・ガーの声を聞いて、はやる心をおさえて静かに沼へ近づき、鳥を見る為に望遠鏡をルックザックから出し、支度をしていると、80才ぐらいの老人がそばに来て「なにをしに来られたのですか」と話しかけてきたので「鳥を見にきたんですよ」と言うと、老人は「私の若い頃は、カモが何万羽ときて、舟で猟に出ると、船の中が山になるくらい、ガンやカモが取れて、東京の方へお歳暮用に、沢山送り出したもんだが、今ではカモが少なくなつて、寂しくなりました」とさかんに昔をなつかしがっていた、私はその話を聞いて、この沼にガンが来ていたなんて、今の手賀沼の様子では夢のような話である。

No3 (3-4 月号)

手賀沼沿岸葦原の清掃作業を終えて (渡辺義雄)

先日市役所経済振興課より依頼されて葦原の清掃作業を行いました。中央公民館下から我孫子高校下までの一軒余。それは、それは大変なものでした。若松団地が造成されて約十年。この間に捨てられたゴミは、空罐、空瓶、鉄屑、はては自転車、オートバイにまでおよびその量も考えられない程のものでした。

プロミナーをのぞいて (飯泉仁)

私と手賀沼の鳥達のつきあいはもう二年近くになります。私は、自然のやさしさ、すばらしさが好きです。あのかわいいカモやサギ達が好きです。彼らにずっと、やすらぎの場所を与えてやりたいと思います。けれど、どんどん都市化されていく手賀沼周辺。どうしたら、彼らのやすらぎの場所を守れるのでしょうか? (後略)

No5 (7-8 月号)

4月27日 第3回総会

(前略) 会則が次のように改正されました。

第5条 (会員)

この会の会員は次の通りとする。

- 1 普通会員 (一般普通会費年額 1,200 円及び中学生以下で会費年額 300 円を前納したものの)
- 2 特別会員 (本会発展のため特別の援助をなしたるもの)

第7条 (役員を選出)

会長及び副会長は総会において選出する。その他の役員は会長が指名する。

全役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。

全役員は総会の決議により解任することができる。

この改正により、会長渡辺義雄、副会長山崎慶次、同高橋敏夫が選出されました。(中略)

なお、議長は坂巻忠雄さんでした。

ホタル池改修について (山崎慶次)

No7 (11-12 月号)

利根開拓地にタンチョウヅルが来た (渡辺義雄)

1975年初参加者 : 三神鶴吉、三神淑子、志賀鉄雄

1976年 (No8~No13)

No8 (1-2 月号)

手賀沼におけるガン・カモ科の記録について (高橋記)

往時、手賀沼のガンやカモはどんなであったか、手許にある日本鳥学会の機関紙「鳥」に発表された黒田長礼博士の「日本産ガン・カモ科鳥類渡来地表」を基に作ってみました。

(コクガン、シジウカラガン、ハクガン、オオヒシクイ、ヒシクイ、ハイイロガン、マガン、オオマガン、カリガネ、サカツラガン、アカハジロ、ホオジロガモ、コオリガモ、カワアイサ 注: 高橋さんのリストには49種記載されていますが、手賀沼で採集、捕獲または観察された記録のある種のみ取り上げました。)

1976年行事 : 本栖湖探鳥、小櫃川探鳥

1976年初参加者 : 木村稔、木村正子、坂巻道代、坂巻宗男

1977年(No14~No19)

No14(1-2月号)

あけましておめでとうございます(渡辺義雄)

我孫子野鳥を守る会は、誕生5年を迎えることができました。皆さんと共に、喜びをわかちあいたいと思います。年頭にあたり、鳥獣保護区「県立公園、手賀沼」の現状を考えてみるのも意義あることと存じます。手賀沼の貴重さと、景観のみごとは、沼を囲む針葉樹、常磐樹、落葉樹の森や林であり、さらに山裾に広がる水田であるといえましょう。秋になると北国から訪れるカモの群は、沼や水田にエサを求めて集まります。農家の人達は稲の刈取りを終え、その稲株から再び稲が成長して、実を結ぶ。その実を丹精して収穫したものでした。このひつじともよばれる二番穂は、中風病にも効果があるといわれ、百姓は大切にしました。これが昨今ではカモのエサに絶対必要なものとなりました。しかし、このひつじも昨年は、夏以来の冷害で実らず、深刻なエサ不足になりました。更に、水辺に生え茂る葦原、ざんざら真コモ、清水に生きる藻、魚、貝、どれもこれも、自然を形成する大切な要素ですが、いずれもしだいに減ってきています。戦後30年、樹はたおされ、山は削られ、開発は容赦なく進められました。工場や家庭から流れ出す汚水により、沼の水は死に、藻は消えうせ、貝は死に、魚の姿も見られなくなりました。遊歩道の延長により、葦原は切断され、小鳥も減りました。カスミ網を張り野鳥を捕獲する不心得の人々もいます。時に突飛な水上暴走族出現もあります。これが手賀沼の現実です。皆さん、手賀沼保全への道は、けわしいでしょう。いったん破壊した自然は、はたして戻るものかどうか疑わしい。国の施策による流域下水道の早期完成は重要な事業であり、それとともに地域住民一人一人が英知を絞って、手賀沼を大切にすることこそ、急務であると信じます。まず、自分の一番身近なところから、手賀沼を守ることを考えてみてください。最後に皆さまのご健康をお祈りしてご挨拶といたします。

No15(3-4月号)

カワセミの確認(中尾照平)

1月29日北風の吹く寒い午後でした。手賀上沼(柏市文化会館側)に鳥を見に出かけました。前日の雨の為水かさが増し目的としたシギの姿も見えないので引あげるべく土手を北柏駅へ向け歩いて居ました。大堀川に突然美しいカワセミが一羽岸すれすれに直進したのを発見した。ズメ大、目のさめる様なコバルトブルー、腹の赤も鮮明、美しい鳥だ。妻共々驚きと共に感激の一瞬。早速プロミナーを据え観察をしようと頑張ったが、再度出現しなかった。

前々から、北柏でカワセミを確認したとの情報を得て居たが、幻の鳥をこの眼で確認出来た事は幸いとしか言い様がないと共に大事に見守る必要を痛感した。

探鳥は何時、何が出るか解らない為細心の注意が必要である事を再認識し、手賀沼にもカワセミがまだいる事を皆様に報告する次第です。

No16(5-6月号)

手賀沼でセイタカシギ確認(飯泉仁)

3月20日、上沼(柏市文化会館側)から沼の最西端の干潟にセイタカシギ(夏羽、亜成鳥、♂)1羽を確認しました。いままで写真集、図鑑でしか見ることのできなかつた本種が、こともあろうに手賀沼で確認できるなんて思ってもいながかつたのでした。(中略)

手賀沼の鳥とのつきあいも5年近くになりますが、こんなに興奮したのもめずらしいことです。(後略)

No19(11-12月号)

鳥だより

我孫子市・手賀沼周辺で見られた、夏鳥、冬鳥、旅鳥、漂鳥等の記録です。市の鳥類目録の資料になりますし、又、次のシーズンの参考にもなりますので、皆さんからの通信をお待ちしています。(連絡先 高橋敏夫)

1977年行事：平林寺探鳥、座生沼探鳥、本栖湖周辺探鳥、古利根周辺探鳥、布施弁天探鳥、本栖湖周辺探鳥、浮島探鳥、ホタル鑑賞会、手賀下沼高野山早朝探鳥、谷津干潟探鳥、小櫃川探鳥、古利根周辺探鳥と野草会、不忍池観察会、ガールスカウト探鳥、裏妙義探鳥
1977年初参加者：小野勝義

1978年(No20~No25)

No24(9-10月号)

那須新甲子温泉探鳥記 5月27-28日(木村稔)

初めての鳥との出会いは常に新鮮な驚きと喜びだ。そしてビギナーの私にはその楽しみがたくさん残っている。(約170余種を見たのみ)今回の探鳥旅行では1日目の午後、那須青少年の家の裏山でノジコを見ることができた。(中略)

翌朝早く、山上の宿舎から阿武隈川支流まで長い下り坂を探鳥した数は少なかったもののカッコウ、ツツドリ、アカハラ、キビタキ、サンショウクイ、オオルリ、カワガラスなどの姿を見、声を楽しんだ。(中略)当日のハイライトは和知さんに案内されたケリの繁殖地だった。バスを降りると水田の青々とした早苗の中にケリが二羽長い足を見せて立っていた。早速カメラのファインダーをのぞく。初夏の太陽は明るくケリの黄色い嘴、真っ赤な鋭い目がはっきり見える。冬の流山で寒さに震えながら見た同じ鳥とは思えないほど鮮やかな色だ。突然キキーと大声を発した。よく見ると羽をふくらませ、こちらを見て警戒しているようすだ。鳴きながら飛んだ白と黒の風切り羽のコントラストが美しい。(中略)

最後に史跡、白川の関を見物した。しかし会の人達にとっては...みやこをばかすみとともにいでしかど...の古歌よりも老杉にさえざるイカルの声に興味があったようだ。(後略)

1978年行事：銚子港探鳥(ハギマシコ約100羽)、菅生沼探鳥、谷津干潟探鳥、大井埠頭探鳥、那須新甲子温泉探鳥、高尾山探鳥、富士山お中道探鳥(メボソムシクイ、ピンズイ、ルリビタキ、キクイタダキ、ミソサザイ、アマツバメ)、三宅島探鳥(アカコッコ、イジママシクイ、イソヒヨドリ、カラスバト、オオミズナギドリ、ハイイロミズナギドリ)、相模川河口探鳥、野鳥保護活動、小櫃川探鳥、座生沼探鳥、伊良湖岬探鳥(私設)、大井埠頭探鳥

1978年の初参加者：西条猛、赤尾完

1979年(No26~No31)

1979年行事：銚子探鳥、軽井沢探鳥、北アルプス白馬山探鳥、菅生沼探鳥(カワアイサ、オオタカ、コハクチョウ、ベニマシコ)、高尾山探鳥(コノハズク、ヤブサメ、クロツグミ、センダイムシクイ、キビタキ、アカショウビン、オオルリ)、富士山お中道探鳥、相模川河口探鳥、秋が瀬探鳥、伊良湖岬探鳥、裏妙義軽井沢探鳥、収め探鳥会と赤尾さんの8mm映画「手賀沼の四季」

1979年初参加者：島崎純造

1980年(No32~No37)

No32(1-2月号)

謹賀新年 (渡辺義雄)

昭和55年の新春を迎え、皆様明けましておめでとうございます。本年も一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。年頭にあたり、手賀沼の環境保全について所感を述べたいとおもいます

現在、莫大な国費と多年の歳月を要し、恒久事業として進められている手賀沼流域下水道工事も竣工の暁には、汚染された下水道の水を浄化し、利根川に流して、さらにきれいな利根川の水を手賀沼に導入する役割をはたすという。しかしながら現在の手賀大橋は沼の中心部からはずれて我孫子側に建設されている。すると我孫子側の水はよどみなく流れるも、沼南町大井地先より手賀大橋たもとを結ぶ水面の停滞水(たまり水)は浄化されるのだろうかという懸念が残る。手賀大橋より沼南町岩井地先を結ぶ水面も同じ事がいえる。さらに下沼水門の位置及び放水路が、沼の中心部をはずれ沼南側に造成された。手賀大橋架橋にあたってもそうであったが、手賀沼全域の治水計画を検討した上で設計であったろうか。今また、あらたに我孫子市、沼南町を結ぶ新しい架橋計画が両市町において検討されていると聞く、もしこれが現実の運びになると上沼の自然破壊は目もあてられぬこととなる。県立自然公園、手賀沼の架橋問題については、市当局も、市民はもちろん、広く県民の声にまで耳を傾け、用意周到にして万全を尽くさねばなるまい。一部の都合のみならず、自然の全体のバランスの、流れを、考慮せねばならぬ時期が来ているのではないだろうか。昨今、市民の間に芽生えた手賀沼を守る諸団体「手賀沼の自然を愛する会、消費者の暮らしを守る会等」をはじめ、一般市民の手賀沼の自然によせる願いは計り知れない。この期待に答える事こそ賢明の策と言える。最後に本年も皆様のご健勝であられます様ご祈念し、ご挨拶と致します。

1980年行事：菅生沼探鳥、高麗川探鳥、給餌活動、谷津干潟・京葉港探鳥、三宅島探鳥、富士お中道探鳥、伊豆沼探鳥

1981年(No38~No43)

1981年行事：高麗川探鳥、バードウィークの活動、戸隠探鳥、相模川河口探鳥、清水公園探鳥、小櫃川河口探鳥、伊良湖岬探鳥

1981年初参加者：首藤美恵子、柴田五郎、首藤佑吉、寺田義雄

1982年(No44~No49)

No44(1-2月号)

新年のおよろこびを申し上げます (渡辺義雄)

我孫子野鳥を守る会は、昭和47年3月12日手賀沼のほとりに生まれ、今年で10年になります。(中略)

現在、会員140名を数え、市内をはじめ、柏、湘南、流山、松戸、市川等その他各地に至るまでその数は広がり、手賀沼を中心とした探鳥会、及び6年間にわたる手賀沼カウントが進められています。(コハクチョウの飛来：昭和47、48、52年。オオハクチョウ昭和48年。 - 略)

併し、利根川周辺の環境悪化と、手賀沼の汚染が一層深刻となり、ハクチョウの姿は見られなくなり、市民の希望は消えたのです。これとは趣を変えて、手賀沼にオオワシ飛来のニュースもありました。53年11月中旬-54年2月25日まで、根戸下の松の大木を休息場所に長期滞在をつづけたのです。野鳥の王者のかんろく充分な、あの雄大な姿も、ねぐ

らの松は枯れ、周辺一円の高層マンション建設とともに見られなくなりました。再び訪れる日はむずかしことでしょう。最近の手賀沼及び我孫子の環境保全について所感を述べて見たいと思います。完成間近い遊歩道、それにともない、葦原をこれ以上損なわないような配慮が必要と思われます。都市計画道の竣工の暁には、道路の両側に広がる水田、台地及び斜面の美林はどうなるのか、特に松林は、近く全滅状態におちいることは避けられなくなりました。荒れ放題の山林をどのように復活させるかが重要な課題であります。昔の人々は森林を大切に保護し、山林を伐採すると、既に用意された苗木植え、毎年下草の刈取り、樹の成長を見守りながら間伐、下枝採り管理を怠らなかつた。貴重な古木、樹林が年々減少している。自然が失われることは野鳥、昆虫、野草とも密接な関係があり、人間の心の奥までむしばんでしまいかねません。(中略)

市当局が古利根沼を自然公園として計画中と言われているが、既に、環境破壊が目立ちはじめているし、手賀沼の二の舞が心配されなければよいのですが、むづかしい問題です。ここで、いま一度、環境庁、地方自治体が一体となり環境行政の立遅れを見直し、環境の保全に最善を尽くしていただきたくお願いもうしあげます。最後に皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ新春のご挨拶と致します。

1982年行事：銚子探鳥、高麗川探鳥、志賀高原探鳥、軽井沢探鳥、富士山麓探鳥

1983年(No50~No55)

No50(1-2月号)

皆様あげましておめでとうございます (渡辺義雄)

野鳥の保護と手賀沼の環境保全について

野鳥を守る会が結成10年にして、昨年は大変明るいニュースが生まれました。それは、各新聞に報道された手賀沼船戸台斜面林の買収です。プラチナ万年筆所有の山林0.75ヘクタールを国、県、市が3億2,000万円を出し合って買収することに決定、このかげには、手賀沼の自然を愛する会、我孫子野鳥を守る会が協力して、緑地保存の運動を推進し、陳情、請願書を提出し、この運びとなりました。さらに、我孫子市はこれに隣接する山林2ヘクタールを所有者から借受け、緑地保全地域として保存されることになったのです。このような樹林が保護され、野鳥の生息場所となり、自然に親しむ人々の憩いの場所が出来たことはうれしいことです。県立手賀自然公園区域は沼を除き水田、畑、山林全域が私有地であり、開発防止の規制が難しい状況にあります。国や、地方自治体がこの問題にどの様に対処するのか。私有権と環境保全をどのように両立させるかが問題で、この要点が解決されない限り、真の環境保全はあり得ません。最近、豪雨のたびに、手賀沼周辺、及他の地域における、家屋浸水の被害をまのあたりに見、自然破壊のおそろしさを感じます。損失は開発が進めば、進む程益々拡大される状況にあり、憂慮に堪えません。さらに、市の北部にある古利根沼はどうでしょう。自然の面影をとどめるこの沼が、近年環境が悪化し、昨年の夏は、大量のカラス貝が死滅し、大変な被害をうけました。その周辺から流出する廃油が水面に漂い黒い沼と化しています。手賀沼にしても、古利根沼にしても心配はたえません。市当局をはじめ、地域住民ひとり一人が自然を愛する気持ちをもってそれを守り続けなければ我孫子の自然は失われていく一方です。新しい年を迎え、皆様のご健在と、ご多幸をお祈り申し上げるとともに、自然を守るという私達に課せられた責務をひしひしと感じつつ、今年も明るいニュースの訪れを期待してやみません。

11月14日 臨時総会

私たちの我孫子野鳥を守る会が発足してから今年満10年になりました。これを祝って会長が赤飯をたくさん作ったのをご馳走になり、来年の行事予定を作製し、スライドを鑑賞して、たのしい時間をすごしました。

No54 (9-10月号)

山階鳥類研究所を我孫子にお迎えして (渡辺義雄)

昨年3月同研究所の郊外移転が新聞に発表され、各地より誘致運動が活発になりました。本会も市民各位のご協力をいただきこの問題に積極的に取り組むことになりました。市当局がさっそく候補地の選定を慎重にご配慮され、土地所有者のご協力もありまして九ヶ所の候補地があがりました。4月23日専務理事法草津孝太、資料室長柴田敏隆両先生にお越しいただきいよいよ現地視察の運びとなったわけです。県当局からも万般にわたり御世話いただきました。私達会員一同、4月11日の総会においては満場一致誘致を決議し、招致に全力を傾けることになり、会を代表して一通の書簡を山階先生にお送り申し上げ本会の熱意をお伝え申し上げました。同研究所においては誘致運動の如何にかかわらず、公正な立場で移転地域の決定をしたとの願いが秘められていたようです。それから一年余りの才月が流れ、本格的に当地に移転が決まり、こんなに嬉しいことはございません。同所に所蔵されている5万5千点の野鳥の標本、一万余冊にのぼる文献、いづれも世界に誇る重要文化財であり、我が国の至宝であると存じます。今後、国内はもちろん世界各地から鳥類研究家が訪れることでしょうし、その殿堂が存在する我孫子市としてもみとめられる時代がやってきた様な感も致します。当地に移転の暁は、本会も野鳥保護団体の一員として微力を尽くし、ご協力を申し上げたいと念願して居ります。来年の秋には、山階鳥類研究所も手賀沼の高台に聳え、さらに緑地保存と手賀沼浄化の必要性が求められることでしょう。そして田園教育文化都市への歩みがより深まりますことを願ってやみません。

1983年行事：銚子探鳥、山中湖探鳥、戸隠探鳥、伊良湖岬探鳥、大子・袋田探鳥

1983年初参加者：安本昌彦

1984年 (No56~No61)

No56 (1-2月号)

謹んで新春を迎え御祝詞を申し上げます (渡辺義雄)

昨年は、山階鳥類研究所の招致に県当局ならびに市当局の絶大なるご配慮を賜り衷心より感謝を申し上げます。同研究所の山林地帯が緑地として保全されることは、このうえもない喜びです。船戸の森、高野山香取神社、水神山、日立経営研修所、我孫子ゴルフ倶楽部、五本松公園など一連の斜面林は手賀沼の自然が昔のまま残されており貴重な文化財であります。それらは県立印旛、手賀自然公園区域内にあり、我孫子市指定のだいじな地域ともなっております。私達は先代から受けつがれたこの自然を大切に次の世代に残していかなばなりません。(後略)

No58 (5-6月号)

渡辺義雄会長逝去さる 幹事会一同(文責、高橋敏夫)

私たちの敬慕する渡辺義雄会長が去る3月16日逝去されました。昨秋頃より容体の勝れぬ日日でしたが、春になれば回復されることと信じておりましたのに、かねて念願の山階鳥類研究所の3月24日の起工式を前にしてはと、かえすがえすも残念なことです。慎んで哀悼の意を表したいと存じます。渡辺義雄さんは、我孫子高野山に生まれ、その故郷をこよなく愛し、豊かな水と緑の風土を誇りとし、我孫子のためになることならばと、本会会長をはじめ、市史研究会の地理部会長その他、多くの役職を引き受けられてこられました。特に、本会発足の昭和47年3月12日より今日まで、満12年間にわたり会長を務められ、その間、野鳥の保護、緑地の保全、ホタルの育成増殖、蝶・樹木・野草の調査等、巾広く活躍され貴重な業績を残されました。また近くは、山階鳥類研究所の我孫子誘致には多大の貢献をされました。かえりみて、家業のかたわらこれだけの活動ができたことは、

ご家族の皆さんの温かいご理解があったればこそと、深く敬意を表する次第です。渡辺義雄さん、長い間本当に有難うございました。どうぞ迦陵頻伽の鳴く極楽土から身守っていて下さい。会員一同あなたのご遺志について、自然保護のため力を尽くします。ご冥福をお祈りいたします。

4月8日 昭和59年度総会

58年度決算報告、59年度予算案、会長等の選出について、審議並びに選出の結果、次のとおり承認決定されました。

(決算・予算案略)

会長等の選出

今期は改選期ではありませんので、渡辺義雄会長逝去により、新会長と幹事の補充として、次のとおり選出されました。

会長：坂巻忠雄

幹事：赤尾完、小池忠、柴田五郎、庄崎富佐子、玉井正博。

No61 (11-12月号)

手賀沼探鳥会といも煮会

(前略)恒例の年納め探鳥会ですが、今年はいも煮の名人坂巻さんが得意の腕をふるって下さることとなりました。いろいろなことのあった今年を省み、新しい年の希望等を語り合いたいものです。

1984年行事：本栖湖・朝霧高原探鳥、郭公の声を聞く会 - 布施弁天、伊良湖岬探鳥、巢箱を作る会

1984年初参加者：田丸喜昭、飯泉久美子、村井治、村井登代、一番ヶ瀬国彦

1985年 (No62~No67)

No62 (1-2月号)

新年明けましてお目度うございます (坂巻忠雄)

皆様には希望に満ちた年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。さらに念願の山階鳥類研究所も私達の身近にこれ、二重の喜びでございます。手賀沼近辺は野鳥の生態、自然保護に一層の関心が深まってゆくことと思われまふ。昨年4月に突然会長という大役を仰せつかりまして半年以上を過ぎました。その間、会員の皆様が好意的に仕事を分担され、会が運営されてきました。前会長の意思をついで家族的な雰囲気の中で、野鳥を主にしながらも植物や昆虫等にも興味と理解を示し、その中から自然保護の思想を広めるべくやってみりました。他の会の人達からも我孫子野鳥を守る会は、まとまりのある楽しい会で、初めて探鳥会等に参加しても、すぐとけこめますという話を耳にします。これも皆様の広い心より生まれるものと、又、渡辺前会長の長い間の苦勞の賜物と感謝しております。さて、手賀沼を囲む環境は年々厳しくなっております。先頃、鳥友を送って、3-5-15号線を湖北まで走ってみました。確かに楽で時間的にも早いし便利です。又、青々とした水田の中を走るのには気持ちのよいことでしょう。しかし、数年後には道路沿いの田圃は埋められ、理解しがたいような大袈裟な看板をつけた食堂等が立ち列ぶことにならなければよいのですが。県民が自然にふれてやすらぎを求める場所としての自然公園の中を貫く道路としての配慮はなされているのだろうか、経済性、便利さ、安易さ等があまりに優先されると自然界の中の一員である人間の存在が忘れられ、人間の為に自然はあるような驕った気持ちになります。私達の会はそのようなことも充分考えて行動するつもりでございます。野鳥、植物、昆虫等と共に今年も歩みます。なお、探鳥会等に出られないで会員になっておられる方がたくさんおります。その方々から私達はお役にたてなくてというお便り

を頂きますが、皆様の温かい後楯があって、はじめて会の力も強くなっております。いつまでも、よろしくお願い致します。

終わりにになりましたが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

1985年行事：牛久沼探鳥、澗沼・大洗探鳥、京葉港と谷津干潟探鳥、赤城山探鳥、小見川探鳥、布施弁天探鳥、伊良湖岬探鳥、巣箱を作る集い、牛久沼探鳥、いも煮会

1985年初参加者：田丸メリールイス

1986年(No68~No73)

No71(7-8月号)

日本鳥類保護連盟会長表彰 (坂巻忠雄)

今度、我孫子野鳥を守る会が環境庁より、鳥類保護に功労があったとして、日本鳥類保護連盟会長表彰を受けました。会員の皆様おめでとうございます。

手賀沼を中心とした探鳥会等で野鳥への愛情を広めたこと。

沼での鴨達への給餌。

沼周辺の清掃活動。小鳥達への巣箱作り。

等のことが認められたためです。

おもえば、会が発足してから今日まで、どれほどの方々とどれほど沼周辺を歩き、どれほど多くの野鳥達とあったことでしょう。今回残念ながら共に喜びあう事の出来ない方もおられます。「よかったなあ」という温和な故渡辺前会長の暖かい姿が目には浮かんできます。

(略)

探鳥事始め (西巻実)

私は1月11日の手賀沼探鳥会を機に仲間に入れていただきました。全くの初心者です。60の手習いよろしく、この年令(2月で64才)になってバードウォッチングを始めようと思いついた経緯を述べて、自己紹介にかえます。わたしは昨年10月に新潟県長岡市から我孫子に転居しました。最大の趣味のスキーと海づりの両方を放棄せざるを得ないハメになり、替りを始めなければと考えました。もともと、家の近くの野や川べりなどを、ネーチャーフォトの被写体を探して歩きまわるのが好きであったことから、その延長線上にあるバードウォッチングを始めることにしたわけです。(中略)

10月に転居し、その整理も一段落した所で、12月21日の探鳥会に飛び込みで参加させていただきました。私にとって、生まれてはじめてのホンモノの探鳥会です。(後略)

1986年行事：房総風土記の丘探鳥、澗沼探鳥、小見川探鳥、八ヶ岳探鳥、谷津干潟探鳥、利根川河川敷と布施弁天ツバメのねぐら探鳥、伊良湖と汐川探鳥、牛久沼探鳥、実のなる植木市、いも煮会

1986年初参加者：西巻実

1987年(No74~No79)

1987年行事：北印旛沼探鳥、山中湖探鳥、丹沢探鳥、ホタル鑑賞会、いも煮会

1987年初参加者：大野真澄、戸谷輝夫

1988年(No80~No85)

1988年行事：澗沼・大洗・銚子探鳥、寸又峡探鳥、ホタル鑑賞会、小見川探鳥、伊良湖岬と汐川探鳥、いも煮会

1988年初参加者：立川節子、戸塚みち、杉森文夫、松本庸夫

1989年(No86~No91)

1989年行事：水元公園探鳥、軽井沢探鳥、奥日光探鳥、富士山お中道探鳥、高浜探鳥、筑波山探鳥、東京港野鳥公園探鳥、伊豆沼探鳥、いも煮会

1989年初参加者：染谷迪夫、大久保陸夫、大久保衣子

1990年(No92~No97)

No92(1-2月号)

お知らせ

当会では毎月行う探鳥会の他に手賀沼周辺の野鳥(主として水辺の鳥)を鳥名別に観察数(目視カウント)の調査集計を会発足以来実施して来ましたが、昭和時代の記録として、1977年より1988年の12年間に渉る記録を取纏めて、1冊の本(仮称、手賀沼野鳥カウント集計)にすべく目下担当者が鋭意作成中です。この本の内容は、B-5版×80頁程度の小冊子で、手賀沼の主として水鳥の各月に於けるカウント数及びその変遷状況を発表するものですが、定点観測、月1回のカウント等十分なものとはいえません。唯我々の12年間の地道な活動を知っていただけたらと考え、平成2年4月末に発行すべく努力中ですので御期待下さい。尚、大量の資料から選択して80ページとする為深く研究されたい方には不満足の声も出るとこと考えます為に、御希望の方には基礎データのコピーを複写の上提示する様考えて居ります。但しこの場合は実費頒布となりますので御諒承下さい。

会費値上げに御理解を

当会の年会費1,500円は昭和52年以来据置いた儘で運営して参りましたが、近頃の経費増に依り会費収入だけでは、会報・印刷費・郵送費のみの支払いにも不足をするのが現状であります。会の行事運営は御厚意に依る寄付及び補助金に依って行われて参りました。会の健全な運営の為にも来年度(平成2年4月より)年会費を2,000円と致し度考えております(中学生以下は全額据置)。本来、会費改訂は総会の決議事項であり、4月定期総会にて決定されるものですが、予め皆様の御理解を得たく御願いに及びます。(会計担当幹事)

No94(5-6月号)

我孫子市鳥の博物館開館 (坂巻忠雄)

皆様すでにご承知のことと思われませんが、日本でも初めての鳥の博物館が我孫子市鳥の博物館として5月20日開館することになりました。私達はもとより野鳥に興味のある方には待望の施設です。野鳥を見る、識る、愛情を持つ、そして保護しようとする気持ちが起きるといのが保護運動への過程です。鳥の研究では世界的に著名な研究所が有り、さらに鳥の博物館を擁する手賀沼のほとりは「人と鳥との共存」の思想を広める中心になりました。この博物館を建設する勇断をした我孫子市とこれを応援した千葉県や関係者の方々に深く敬意を表します。私達もこれを機会に野鳥の棲息できる環境の保全、しいては私達子孫の健全な生活できる環境作りに一層尽力しなければならないと思います。(一般公開は5月22日からです)

5月13日 愛鳥週間行事 (木村稔)

平成二年度のバードウィーク行事は、山階鳥類研究所、我孫子野鳥を守る会共催、鳥の博物館後援で「市民探鳥会」を開催した。5月13日当日は好天に恵まれ、一般参加者・当会員合わせて150余名の盛会になった。山階鳥類研究所から杉森さん笹川さん石本さんにも指導、解説に加わっていただいた。朝9時30分から約10名のグループ毎に当会員が案内と説明役で数名付き添い、市役所を出発、ゆっくりと歩きながら鳥研前から手賀沼遊歩道

のコースに向かった。バードウォッチングは初めてという家族連れが多く、コゲラ、バン、キジ等自然の中で身近に鳥が見られて驚いたり、感心したり、楽しそうであった。会員の皆さんも熱心に説明していた。正午に鳥研の前庭に全員集合して飯泉さんのやさしく楽しい解説付きで鳥合わせ（27種）の後、杉森さんに手賀沼の鳥オオヨシキリの話をしていただいて締括った。

今回の行事を行うにあたって、企画、広報から当日の交通安全に至るまで多くの方々のお世話になりました。

1990年行事：江戸崎・浮島探鳥、水元公園探鳥、フィールドの清掃、葛西臨海公園探鳥、浮島・小見川探鳥、磐梯高原探鳥、ホタル鑑賞会、多摩川河口探鳥、富士川河口と山中湖探鳥、いも煮会

1990年初参加者：瀬下猛男

1991年（No98～No103）

No98（1-2月号）

謹賀新年（坂巻忠雄）

新年明けましておめでとうございます。皆様には希望に満ちた新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は日本でも初めての鳥の博物館が手賀沼の畔りに設立されました。人と鳥との共存をめざしての思想に又一つ力が加わりましたことは、鳥を愛する人に大きな喜びです。お正月ですので夢をふくらませてみます。山階鳥類研究所があって鳥の博物館も存する手賀沼の空に初日が上がります。その初日に向かって雁の群れが飛ぶ。これは夢ではないかも知れない。山階鳥研の笹川さんが「ほーほーどり」で、杉森さんが講演で手賀沼に雁を呼ぼうとよびかけて下さった。昨年の我孫子市民講座で、雁を保護する会会長の呉地さんが、伊豆沼の雁は年々増えており、あまり多くなると病気等の心配も有るので分散を真剣に考えている。かつて存在していた関東地方がよいと話されていた。私は柏市布施に以前あった和田沼という関東では屈指の雁飛来地近くで育った。夕方になると遊びほうけている子供達の上をシュルシュル、シュルシュルと羽音を響かせて雁が飛んでいった。遊びをやめて子供達が雁の群れに向かって「ガンガンへの字になあれ」と大声でさげんだ頃が思い出される。“雁よ、再び手賀沼へ”の希望が大きく広がってきた。本年も素晴らしい年でありますよう祈っております。

No101（7-8月号）

5月12日 バードウィーク手賀沼探鳥会（首藤美恵子）

5月12日「バードウィークの「探鳥会」の行事が我孫子市鳥の博物館と山階鳥類研究所との共催で行われた。5月はホームグラウンドの手賀沼も一番鳥の少ない時であり、バードウィークをこの時期に決めた人がうらめしい程である。毎年のようにもしこれが沼にカモ類が帰って来ている冬だったらと残念に思われる。それでも出席者の方々は意外に早く受付の机をセットする間ももどかしく、いろいろな質問が飛びかっていた。今年は昨年までとは異なり参加者が多く赤ちゃん連れの若い家族、小学生の友達グループ、仲睦まじいオシドリ夫婦とバラエティーに富んでいる。15名位のグループごとに別れ、それに我々の会より2-3名ずつの案内役がついて、岡発戸市民の森までバスでのピストン輸送で、いよいよバードウォッチングの始まりだ。やかましくさえずっていたオオヨシキリの口の赤さに歓声が上がったり、バンが手のとどきそうなくらい近くの岸まで姿を見せたり、キジの雄姿と新緑の草とのコントラストを楽しんだり、初めて見た我孫子市の鳥オオバンに感心したりと、行程約5Kmを楽しくウォッチング and ハイキング出来た。企画側に博物館が加わったこともあり、最後には無料で館内を見学する事が出来た。今回の行事で、1つ目は

参加者が毎年増えつづけている事、2つ目は行程がいつもより長かった事、3つ目は博物館の無料見学が出来た事が例年との相違であると思われる。我々会の一員として参加者に楽しんでいただける様な案内が出来ようになり、それがより多くの人の目を自然に向けるきっかけにつながったら良いと思う 参加者：会から 38 名、山階鳥研から 2 名、鳥の博物館から 4 名の他、一般参加者 200 名以上。

No103 (11-12 月号)

訃報

会員、中尾照平さんが、去る 9 月 19 日「鳥と句の余生賜り初御空」の句を残して逝去されました。会の会計担当と名世話役として、会には大切な方でした。野の鳥たちをこよなく愛した人が、秋の渡りの季に、一生に一度の帰らぬ渡りの旅に出してしまいました。謹んでご冥福をお祈りし、お報せいたします。 合掌

1991 年行事：ガン・カモ類調査、行徳野鳥観察舎探鳥、高麗川探鳥、葛西臨海公園探鳥、沼南町早朝探鳥、シギ・チドリの調査、軽井沢探鳥、ホタル鑑賞会、波崎港探鳥、千葉県生涯学習行事(生き生きバードウォッチング)、不忍池探鳥、いも煮会(牛肉の輸入自由化で、これまでのラム肉からこの年から牛肉に変わる)

1991 年初参加者：小玉文夫、小玉信子

1992 年 (No104~ No109)

No104 (1-2 月号)

新年あけましておめでとうございます (木村稔)

昨年は前会長の坂巻さんが、鳥、緑、人をスローガンに我孫子市議会議員に立候補し多くの人々の支持を得て当選したことは会員一同にとって大変嬉しいことでした。全員で応援していきたいと思えます。新議員の御活躍を期待しています。一方師表と仰ぐ先輩会員が亡くなられるという悲しいこともありました。今年は昨年にも増して環境問題がとり上げられると思えます。これ以上環境破壊が進むと私達の生活に昔の人の云うところの自然界からの祟りがあるかも知れません。祟りは私達が神(自然のルールを含めた)に違反したり、抵抗したりするとき起こる報復現象です。自然に宿る神に祟られたら人間は反省し誠意を示してその償いをしなくてはいけないのです。今となっては供物を供えてお祭りをする位では手賀沼の水に宿る神は許してはくれないでしょう。祟りを意識して自然と人とを大切に作る智恵を個人も共同体もその掟として守りつづけてきた昔の人々は現代人より科学的だったようです。

鳥を楽しみながら和気藹々とする先輩会長が作って来た会の伝統に習っていきたくと思えます。力不足の新会長です。皆様のご協力をお願い致します。

11 月 3 日 臨時総会役員の一部改選を決議

会長：木村稔(新) 副会長：首藤美恵子(留) 飯泉仁(新) 会計：西巻実(新)(事務局兼務) 顧問：高橋敏夫

会長辞任のご挨拶 (坂巻忠雄)

寒さが厳しくなってきましたが皆様お元気ですか。今度突然会長を辞任し大変ご迷惑をおかけ致しました。故渡辺前会長の後を継いで 7 年半なんとか会長をやったのも皆様の温かいお気持ちに支えられたものと深く感謝しております。思えばたくさんの事がありました。特筆すべきは山階鳥類研究所が手賀沼辺りに設立され野鳥に関する相談に気軽にのっていただけ又会の活動を御支援いただいた事は会長として心強い限りでございました。小さな思い出になると 4.5 年前冷夏の影響が農薬等の為か蛭鑑賞会を 4 日後にして蛭池で全然蛭が光らない年がありました。高橋さんと蛭池の前で思案にくれた事も懐か

しい思い出です。会に入って約 20 年近くになります。この間皆様や鳥や虫や草木からたくさんの事を教えられました。この教えを生かして街作りに励みたいと思っております。今ごろ宮城県の伊豆沼にはたくさんの雁が群れていることでしょう。西方の山に日が沈むと一群又一群と編隊を組んで沼に帰って来ます。雁の群れは仲間意識の非常に強い集団と言われております。鳥にたとえれば我孫子野鳥を守る会も雁の群れかも知れません。その群れの中で仲間を心から大切に、私を助けてくれた中尾、立川さんが今年御逝去されたのは誠に残念でした。お二人様の御冥福を心より御祈り申し上げます。最後になりましたが、新会長のもと会の益々の発展を御祈り致しますと共に私も微力ながらお手伝いさせていただきます。皆様本当に有難うございました。

No105 (3-4 月号)

平成 4 年新春探鳥サーキットレポート(“僕と遊んでチョウダイ”) (田丸喜昭)

暮のイモ煮会の時、川端さんは「島崎さんが正月休に、一緒に鳥を見に行こうよ」と言っているよとのこと。正月の予定も天気のことそのときはまだ分かっていなかったのだから聞きおいていた。正月に、年賀状を見ながら、島崎メッセージを思い出して電話してみると即座に 2 日の出馬が決まり「正月ひまそうな」同好の士をつのった。1 月 2 日早朝、第 1 号車は田丸、西巻、高橋と回り、第 2 号車の首藤、島崎、川端と合流する。この日のポイントは、茨城県潮来町宮前地区の北浦、茨城県神栖町神之池、茨城県波崎町新漁地区。どのポイントでも、見るべき鳥は皆いてくれたし、光線の具合も良く一同大満足の日であった。帰路のコーヒブレークで「僕は 1 月 3 日に北茨城の花園ヘオシドリを見に行くよ」と言ったら皆で行こうよということになった。3 日早朝、ウチの女房は頭痛で不参加となったが他は元気に 6 号線沿いのカーチャン前に集まり交通量の少ない 6 号線と常磐高速を北上した。水沼ダム入口の橋では、ヤマセミの出迎えを受け、上空に乱舞するトビの群れに脅えたか多数飛び立ったオシドリの群れで、その存在がわかった。ホオジロが車の窓から 50c m 程のところでは我々に正月の挨拶をし、ジョウビタキのメスが、ダム周辺道路の道案内をしてくれた。湖面にカイツブリ 2 羽と普通とは違う小型のカモが 1 羽浮かんでいたが、全員の総合判断でシマアジとした。1,200 年の歴史を持つ花園神社へ参拝し、近くで養魚場と民宿をしている増淵川魚園でマスの塩焼、手造りコンニャクのサシミ、フキ、ウド、野生の葉や実のテンプラの定食にマスのサシミを追加注文し、腹ごしらえをし、一人あたりの代金 1,400 円也。運転手二人(首藤・田丸)は、これをサカナに、日本酒が飲めないことに大不満、「ここへ泊まっちゃおうか」。花園溪谷と亀谷地湿地には、雪が残っていて、鳥影は薄かったが、季節を変えれば野鳥の多い場所で楽しめそうと判断。平家の落人の集落ではないかと思われる、人里離れた部落を通り抜け、一気に大津漁港五浦海岸まで駆けおり、海鳥を捜して鵜の子岬(ほんの気持ちだけ福島県に足を踏み入れて)から、南へ下って、小貝浜、鵜の岬を回り、ウミウ、イソヒヨドリ、カモメ類を見た。春先のような天候に恵まれ、「僕と遊んでチョウダイ」の島崎さんの一言にさそわれて正月休みの 2 日間 600 キロ弱を走り平成 4 年の幕が上がった。(見た鳥合計 55 種) 注:この後、「僕と遊んでチョウダイ」探鳥会は、行き先は上記とは異なるが、会の公式行事となる。

1992 年行事:江戸崎探鳥、手賀沼ガン・カモ調査、沼南町中央公民館主催の手賀沼探鳥会の案内、五本松公園と香取神社の巣箱の交換、古徳沼・鵜の岬・大洗海岸・涸沼探鳥(帰路、酒がきれ、酒屋を探す探酒ツアー)、印旛沼北部探鳥、1992 年度総会、利根川河口・波崎港探鳥、シギ・チドリ、カウント、バードウィーク(我孫子駅構内写真展と手賀沼探鳥)、多摩川河口探鳥、シギ・チドリ一斉カウント、伊良湖岬探鳥、谷津干潟探鳥、不忍池探鳥、手賀沼ふれあい清掃、手賀沼市民探鳥会、巣箱の清掃と補修、いも煮会

1992 年初参加者:梅村康之 折原淳二

1993 年 (No110~No115)

No110(1-2 月号)

謹賀新年 (木村稔)

明けましておめでとうございます。今年はトリ年です。鷹の初夢が見られたでしょうか？ 昨年は我孫子野鳥を守る会の創立 20 周年と高橋顧問の叙勲のお祝いをする会が、来賓に大井市長、山階鳥類研究所所長黒田博士、鳥の博物館の水村副館長をお招きして盛大に行われました。会の創立と 20 年の長い間会員を指導して下さった方々の努力に改めて感謝申し上げます。(略)

1993 年行事：鳥博紹介 TV 番組に協力、沼南町中央公民館の野鳥観察会案内、裏妙義探鳥、銚子港探鳥、1993 年度総会、シギ・チドリカウント、布施弁天に渡り鳥を探す会、印西町中央公民館探鳥会の案内、古利根沼の清掃、親睦情報交換会、少年自然の家探鳥会指導 冬のカモの観察会、明治神宮・不忍池探鳥、東京港野鳥公園探鳥、バードウィーク手賀沼市民探鳥会、山中湖畔・朝霧高原探鳥、手賀沼ふれあい清掃、スライド会、巣箱の清掃、いも煮会

1993 年初参加者：小島経一、 宮下三禮

1994 年 (No116~No121)

No116 (1-2 月号)

年頭の挨拶 (木村稔)

酉年の平成五年に、皆さんはどんな鳥に巡りあえたでしょうか？ 年末に、谷津干潟に飛来した、ソリハシセイタカシギが、新聞に大きく紹介され、バーダーが各地から駆けつけました。珍鳥だけでなく、鳥に関わる記事を良く見かけます。動物や自然に関心が高まっているからでしょう。「我孫子市鳥の博物館」が 90 年に開館して以来、入場者は 35 万人を越えているそうです。また、山階鳥類研究所は鳥の研究者のメッカとして知られています。この二つの立派な施設と美しい手賀沼の景観を持つ我孫子は、「愛鳥の市」を全国に宣言する条件が整っていると思います。それを実現させるために、「日本一汚れている手賀沼」のイメージを払拭したいものです。北千葉導水路からの放水と手賀沼大橋の架け替えが水質と流れをどう変えるか、良い結果を期待しています。鳥に関しては、沼の一部に鳥を造ってみてはどうだろうか。岸辺の狭い葦原より、水鳥にとってより安全な場所提供をし、シギの降りる干潟にもなり、植生があれば繁殖もできるようなものができるだろうか。その他、鳥獣保護区をさらに拡大することや、斜面林の保全等、環境が整えば雁を呼ぶことも夢ではないかも知れません。「愛鳥の我孫子市」飛ぶ鳥の我孫子を実現したいものです

No121 (1-2 月号)

「手賀沼の鳥」誌のお知らせ

当会創立 20 周年を記念して計画した「手賀沼の鳥」の出版のメドが付き、年内には会員に無料配布できそうです。実は本年 3 月に完成のつもりでしたが、書き直しを繰り返し、たいへん遅くなってしまいました。内容は、過去 21 年間に会報に記録されたこの地域の鳥を網羅した「鳥類目録」と、開始して以来 17 年間続いている手賀沼のカウント記録を、鳥類ごとに詳しく説明した「水鳥の個体調査」を中心にしたもので、さらに高橋さんの「昔の手賀沼の思い出」や会の「年表」など盛りだくさんです。楽しみにお待ちください。

1994 年行事：私設「僕と遊んでチョウダイ」探鳥会、軽井沢探鳥、井頭公園臨時探鳥、1994 年度総会、印西町中央公民館の探鳥会の案内、東京湾の渡り鳥に出会う会、布施弁天のシギ・チドリ観察、シギ・チドリの一斉カウント、バードウィーク手賀沼探鳥会、裏磐梯の夏鳥、親睦情報交換会、スライド会、多摩川探鳥、タカの渡り調査(茨城支部に協力)、沼

南町中央公民館の探鳥会案内、手賀沼(沼南側)ミニクリーン作戦
1994年初参加者：高橋敏彦

1995年(No122~No127)

No122(1-2月号)

あけましておめでとうございます (木村稔)

昨年度も会員の方々のご協力により多くの行事が催されました。毎月の定例探鳥会、我孫子市鳥の博物館、山階鳥類研究所と共催のバードウィーク市民探鳥会の他、遠出の探鳥として周辺の環境が素晴らしかった井頭公園、鴨の大群が集結した東京湾、夏鳥の囀りを聞いた裏磐梯、渡りのシギ、チドリを見た多摩川河口等、色々な自然の中で野鳥を楽しみました。我孫子市長寿大学、沼南町中央公民館、印西町、親水広場の野外観察スクールからの依頼による講演、探鳥会案内は好評の内に終了することができました。中でも我孫子野鳥を守る会20周年記念行事として「手賀沼の鳥・20年の観察記録」が出版されたことは会員にとって大変な喜びであります。本誌の内容は我孫子野鳥を守る会の17年間の水鳥カウント記録から種別個体数の変動がグラフで表示され一目でわかるようになっていきます。会員の野鳥観察記録による鳥類目録と高橋顧問の「手賀沼の水鳥を見て四半世紀」、付録の「我孫子野鳥を守る会20年の歩み」を加え、会の歴史が込められた本になりました。巻頭に大井一雄我孫子市長と山階鳥類研究所所長であり鳥の博物館館長の黒田長久博士の祝辞をいただいています。まさに当会の宝物ができました。本誌を広く役立ててもらうため県内の学校や図書館、関連する研究機関にできるだけ寄贈しました。改めて本誌刊行に向けて時間と労力をいとわず編集、推敲を重ねて立派な本を作ってくださった編集委員の皆様には会員を代表して厚くお礼を申し上げます。特に赤尾さん、飯泉さん、西巻さん、そして終始執筆者を励ましてくださった杉森さん本当にご苦労様でした。この「手賀沼の鳥・20年の観察記録」を今後の我孫子野鳥を守る会にどう生かすか、水鳥カウントの継続とその方法、会員の観察記録のまとめ方、識別能力の向上等、続編に向けての提案をおまちしております。

No123(3-4月号)

生活文化賞を受賞

「手賀沼の鳥」を出版した当会が、中央学院内アクティブセンターから表彰され、2月6日木村会長ほか数名が出席し「生活文化賞」を受賞。副賞として十万円と記念品(スライド映写機)を頂きました。記念品の内容は当会の希望によるものです。また十万円は「手賀沼の鳥II」の基金として積み立てることにしました。

No124(5-6月号)

坂巻忠雄さん、やすらかに

坂巻さんが2月16日に逝去されました。訃報に接した殆どの人々が「まさか」と絶句しました。明るくて活動的な坂巻さんのイメージが脳裏に残り、いまだに信じられない気持ちでいる人も多いと思います。坂巻さんは当会初代会長の渡辺さんを継いで二代目会長を務められました。坂巻さんの信念、熱意、行動力、ユーモア、酒等々が身近に常に要請の活力と安定感を醸し出し、多くの人々を魅了してきました。当会の発展も坂巻さんと共にありました。平成3年には我孫子市の市議員に当選され自然保護活動に一層の拍車がかかったところでした。今後、益々のご活躍が期待されておりましたのに残念でなりません唯々ご冥福をお祈りするばかりです。

1995年行事：「僕と遊んでちょうだい」パートI探鳥(武具池、金砂郷、石岡市高浜)「僕

と遊んでちょうだい」パートⅡ探鳥（波崎港、銚子、東庄県民の森、神之池、北浦延方、江戸崎）沼南町中央公民館の探鳥会の案内、井頭公園探鳥、手賀沼船上視察会手伝い（千葉県環境財団主催）早春の小鳥と水鳥のバーディングツアー（大野貯水池、清里、軽井沢）、1995年度総会と中央学院内アクティブセンターの生活文化賞受賞記念祝賀会、出島村のシギ・チドリ探鳥、シギ・チドリカウント、筑波山探鳥、バードウィーク手賀沼探鳥会、富士山五合目探鳥、谷津干潟探鳥、秋の筑波山探鳥、古利根沼水辺清掃、マガンの帰還と飛び立ち（伊豆沼）環境パフォーマンス展（手賀沼浄化フェアの一部）手賀沼ふれあい清掃、親水広場の野外観察スクール手伝い、東京都北区都民の探鳥（手賀沼）手伝い、いも煮会、長寿大学探鳥会手伝い

1995年初参加者：猪爪敏夫、武藤康之

1996年（No128～No133）

No128（1-2月号）

新年およろこび申し上げます（木村稔）

（前略）7月1日の我孫子市政25周年式典に於いて、市民団体として、「感謝状」（一般功勞）。更に12月8日「'95ちば環境文化賞（千葉銀行、千葉日報社共催）」を受賞しました。この賞は千葉県の快適な環境づくりや自然保護などに優れた実践活動を続けている個人、団体を顕彰するものです。長期間にわたり、野鳥の観察調査や啓発活動に地道に取り組んできたことが高く評価されました。（中略）

私たちがフィールドにしている手賀沼は、またしても20年目のワースト記録を更新してしまいました。大都市近郊にある湖沼の水質浄化がいかに難しいかということです。（中略）今年千葉北導水路跡地利用と我孫子側の堰堤工事が始まり、大噴水も完成して、景観が大きく変わることになります。水鳥を指標として沢山の生物が生息できる環境を、取り戻すためにより具体的な提案が必要です。一方「美しい手賀沼を愛する市民連合」も発足し行政、市民一体の浄化運動も高まっています。三年鳴かず飛ばずという言葉がありますが、20年鳴かず飛ばずなら、飛ばば將に天を衝かんという年にしたいと思います。

No131(7-8月号)

またまた受賞

当会が「平成8年度千葉県環境賞」を受賞に決定、との通知を5月28日に我孫子市役所からいただきました。表彰式は6月11日習志野文化ホールで行われ、木村会長と首藤副会長が出席の予定です。

（後略）

1996年行事：「僕と遊んでちょうだい」パートⅠ探鳥（常陸太田市、古徳沼、石岡市高浜）、「僕と遊んでちょうだい」パートⅡ探鳥（小見川、波崎港、銚子、北浦延方）、真岡市井頭公園探鳥、手賀沼清掃、千葉環境文化賞受賞記念祝賀会、情報交換会、高尾山探鳥、1996年度総会、茨城県出島村に春のシギ・チドリを訪ねる会、筑波山探鳥、バードウィーク手賀沼探鳥会、野鳥写真展、退職教員探鳥案内、戸隠高原探鳥、情報交換会、小見川探鳥、少年自然の家探鳥会手伝い、スライド映写会、手賀沼でホテルを探す会、夏休み親子船上学習会のお手伝い、川崎市小島新田探鳥、タカの渡りの観察、手賀沼の清掃、我孫子こどもまつり、環境いろいろ展、マガンの帰還と旅立ちに出会う会、親水広場の野外観察スクールのお手伝い、手賀沼ふれあい清掃 探鳥セミナー、少年自然の家探鳥会手伝い いも煮会

1996年初参加者：間野吉幸、橋本清、佐々木隆、山本貞江

1997年（No134～No139）

No134 (1-2月号)

あけましておめでとうございます (木村稔)

手賀沼の水面を赤く染めて、朝日が昇り新年が訪れました。手賀沼は四季折々素晴らしい景観と鳥の姿を見させてくれます。我孫子市の手賀沼カレンダーや写真集「手賀沼追想」には手賀沼の美しさが凝縮されています。「手賀沼百人一首」や「手賀沼句集」会員の句集には自然の美しさに触れた感動がこめられています。そこには残しておきたい手賀沼の姿があります。広い水辺空間と少し歩けば40種以上の鳥が見られる環境はかけがえのない財産といえます。しかし最近の我孫子駅周辺のマンションラッシュには驚くほどであり、斜面林はじょじょに失われつつあります。屋敷林や生垣、菜園が住宅、駐車場に変わっているのが現状です。せめて手賀沼周辺だけでも豊かな緑の地域として市民のオアシスにしたいものです。それには多様な種類からなる水辺林を作り、街路樹を増やしてゆくことが必要です。最近、琵琶湖を見る機会がありました。透明度は6mもあり、CODも手賀沼の1/8程度で比較するのも憚るような違いですがこれも琵琶湖へ流入する河川を汚すまいとする流域住民の力強い取り組みによるもので、いち早く富栄養化防止条例を制定した先進県だけのことはあると感心してきました。我孫子の市民パワーを集結した「美しい手が沼を愛する市民連合」の今後の働きに期待します。

No135 (3-4月号)

いも煮会雑記 (田丸喜昭)

私の探鳥会アルバムは、10年前の1986年に会の行事で清里清泉寮へ行った探鳥会から始まり、私が撮ったものや、他の人から頂いたもので、すでに3冊が一杯になった。その中で一番多い写真が、我が会恒例のいも煮会の時のもので、これは1988年から記録され始めている。10年前の先輩、仲間や、不幸にして物故された方々の若かった頃の顔や様々な表情の顔を眺めてみると、感慨深い。いも煮会で私が撮る写真は、ガソリンを臍腑の中に送り続けながら肉を切り終わったホンノ短い間に、自分がいるところでカメラを取りだし、ズームレンズを使って、バチバチと連続しているんな人々の表情を捕らえるのだ。従って、自分のカメラに入る範囲の人々の写真しか撮れず、すべての参加者の表情を捕らえるわけにはいかない。95年のいも煮会では、キャンプファイヤーのそばの木に、その日に取り付けた巣箱に早速シジュウカラが入った写真もある。92年の、会の創立20周年と、高橋さんの叙勲記念パーティーの写真も、今から見ると懐かしいものだ。(中略)
アルバムは、何かの機会にお見せすることで、会員の皆さんの思い出をよみがえらせることができるでしょう。あの頃の自分は若かったなあと思っていたために。

No136 (5-6月号)

遠出探鳥会のおすすめ (事務局)

会では日帰りとお泊りの遠出探鳥会をやっています。これに参加された方はすでにご存知ですが、手賀沼探鳥会とは違った楽しさがあります。1. まず手賀沼では見られない鳥に会うことができます。いろいろの鳥に出会うためには場所を変えるのが最も有効だからです。2. 仲間と親しくなれます。なにしろ1日か2日ずっと一緒に行動しますから。ましてお泊りのときはお酒も一緒に、いっきに親しくなってしまうます。そして楽しいです。リーダーからマンツーマンの指導が受けられます。時間がたっぷりありますから、ふだん聞けないような話もできます。3. 以上のために識別などめざましく上達します。その証拠に、近年入会されてメキメキと腕をあげている人は、例外なく遠出探鳥会にマメに参加している方です。というわけで、早速遠出探鳥会に申し込んでください。特に一泊には定員がありますから、早めに。

1997年行事 : 「僕と遊んでちょうだい」パートI探鳥(この年から公式行事に昇格)(栃木

県真岡市井頭公園、鬼怒川河川敷)「僕と遊んでちょうだい」パート II 探鳥(小見川、神之池、波崎港、銚子、江戸崎町稲波)、都心で珍鳥やオシドリを探す会、少年自然の家探鳥会手伝と一泊懇親会、探鳥セミナー、軽井沢冬の探鳥、出島探鳥、1997年度総会、九十九里海岸のシギ・チドリに出会う会、ゴールデンウィークの筑波山探鳥、少年自然の家探鳥会手伝、バードウィーク手賀沼探鳥会、写真展、植物観察会、妙高・戸隠高原探鳥、情報交換会、スライド映写会、小見川・浮島探鳥、探鳥セミナー、手賀沼船上学習会の手伝い、多摩川河口探鳥、小櫃川河口探鳥、谷津干潟探鳥、手賀沼(沼南町側)清掃、あびこ子どもまつり、バードカーピング展のお手伝、環境いろいろ展、浮間公園・不忍池探鳥、手賀沼ふれあい清掃探鳥セミナー、いも煮会。

1997年初参加者：諏訪哲夫、田中斉

1998年(No140~No145)

No140(1-2月号)

あけましておめでとうございます (木村稔)

カッパの群像から噴きあがる水煙の向こうに掛け替わった手賀沼大橋が見え、沼南町側には北千葉導水路の施設も完成し、手賀沼の景観も年毎に変わっていきます。一方で昔ながらの水辺の景色を保存しておきたいと思う人たちも多いのです。最近、我孫子市では谷津田をエコミュージアムとして公園にする企画を発表しました。候補地の谷津田は休耕田が多く、乾燥化が進み、斜面緑地も面積が少ないとはいえ、小道を歩くとクヌギやシラカシのドングリが沢山落ちていたり、ムラサキシキブ、ガマズミが色鮮やかです。群生するガマの穂、秋空にサシバの声、畑地にキジが見えたりするこの谷津田は市内ではわずかに残った貴重な自然空間です。市民参加で多少の手を加え、水草の生える池や湿地を作り、水田を復活させ、水辺林の植生が整ってくればこの谷津田は四季折々野鳥や昆虫などに出会える市民の散策地になります。我孫子の自然遺産を残すため会員の皆様の参加を待っています。

No141(3-4月号)

恒例 いも煮会(12月21日) (染谷迪夫)

毎年恒例のいも煮会は、今年も会員の皆さんの善行のおかげで無風、快晴、冬至前日とは思えない暖かさ、絶好のいも煮会日和となりました。私が初めて参加させていただいたのは10年前のことです。当時、参加者は50人前後だったと思います。今ではだんだんと増えて、今年は70余名、家族の方々を含めると80名以上になると思われそうですが、素晴らしいことだと考えます。なぜなら、我孫子が本当の意味で会員の方々のものだと言えると思うからです。ここにも会の良さ楽しさが見てとれます。会の運営や今日の行事に携わって、お骨折りされた幹事の皆様や会員各位には感謝の気持ちで一杯です。どうもありがとうございました。(遊歩道探鳥後、会場に到着し)ビールを飲み始めたところで、肉を焼く役目を仰せつかりました。肉を焼きながら皆さんの様子を見ますと、如何にも楽しそうで心からくつろいでいる様子です。この様な楽しい、いも煮会はいつまでも続いてくれるといいのになあ、おもわず考えてしまいました初めて肉を焼く役目になり実際にやってみて、いろいろな事を教えていただきました。(中略)私個人として焼き具合はミディアムレアーがおいしいとおもっています。肉のうま味がよくひきだされるようなきがしますが、皆さんいかがでしょうか。今日、わたしが教えていただいた基本的な肉の焼き方は、火は強火で、おもて裏はひんぱんにひっくりかえさない、肉汁が表に染みだして表面にあがってきたところで裏返す、また肉汁があがってきたら裏返す。これを二度ほどくりかえすとおいしいミディアムレアーのできあがりです。”ほどよくコゲ目がいっていかにもおいしそう“というようにぐあいです。(中略)

ところで、恒例になりましたも煮会の行事がいつごろからはじまったのかご存じですか、野鳥の会が発足して 25 年になります。先輩方にお聞きしたところ定かではありませんが 18-20 年とのお話でした。でもいも煮会の行事は始めて以来毎年欠かさずにやられたそうです。一度も中断された事はないとのこと。20 年間も当日の天気がよく行われたことは、凄いことではないでしょうか。会員の方々の善行も筋金入りとおもわれます。この記録がいつまでも続くように願わずにはられません。

No143 (7-8 月号)

平成 10 年度野生生物保護功労者表彰を受賞

日本鳥類保護連盟が毎年全国を対象におこなう表彰のなかの「日本鳥類保護連盟会長賞」をいただくことになり、6 月 26 日に伝達式を行うとの案内が千葉県環境部長からありました。とりあえずお知らせします。いままでにたくさんの賞を頂いていますが全国対象の賞は 1986 年の同名の賞以来です。諸先輩や皆様が築かれた 26 年間の活動が認められたものと思われ、感謝とうれしさいっぱいです。

副会長に島崎さん就任

今年の 4 月の総会で首藤副会長が人気 1 年を残して退任されました。総会の決議にもとづき、5 月 10 日の幹事会で島崎純造さんが選出され就任されました。任期は前任者の残存期間の平成 11 年 3 月末です。

編集後記

今回を最後に編集を交代します。7 年間は早かったように思います。長い間おつきあいありがとうございました。首藤美恵子

No144 (9-10 月号)

この号から編集長に、梅村康之氏が就任。

No145 (11-12 月号)

訃報

当会の会員で永年会の発展にご尽力された、川端英雄さんが去る 10 月 12 日永眠されました。永年の活動に対し感謝いたすと共に、心からご冥福をお祈りいたします。

川端さん、さようなら (木村稔)

川端さんは、座談のときは皆を笑わせて座お盛り上げ、幹事会では意見を堂々と発言し、小柄ながら存在感がありました。自宅では傷病鳥の保護に努め、手当てをしも助からない鳥が多く食事が喉を通らないこともあったと聞いています。酒と鳥を愛した頼もしい先輩でした。心からご冥福をお祈りします。

1998 年行事：井頭公園探鳥、小見川・神之池・波崎港・銚子・江戸崎町稲波探鳥、親水広場の探鳥手伝、探鳥セミナー、裏妙義・軽井沢探鳥、少年自然の家探鳥会手伝、谷津干潟探鳥、筑波山探鳥、バードウイーク手賀沼探鳥、八千穂高原探鳥、富士山五合目探鳥、映写会、探鳥セミナー、小見川・浮島探鳥、花園溪谷探鳥（幹事研修）、岡発戸での自然観察、多摩川河口探鳥（ここでの探鳥の帰路「サンズイの酉の会」が恒例となる。）、清水公園探鳥、手賀沼清掃（沼南町側）、奥日光探鳥、「庭に鳥を呼ぶ」展示、市民手賀沼探鳥会、柏市教育委員会探鳥会の案内、古利根沼清掃、手賀沼ふれあい清掃、親水広場の野鳥観察スクールのお手伝い、探鳥セミナー報告、日本退職者協会の探鳥会お手伝い、いも煮会

1998 年初参加者：小林秀美、中野久夫

1999 年 (No146~No151)

No146 (1-2 月号)

年頭のご挨拶 (木村稔)

寒い朝もスズメ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス達の声で気持ち良く目覚める事ができます。それも狭い庭ながら木立のあるおかげです。草木は虫にも棲家を提供し、秋にはコオロギやネタタキの鳴く声も聞かれました。最近朝の散歩をする人が多くなりましたが、垣根の緑は散歩を更に楽しいものになっています。市内の林に囲まれた谷津田では、400種近くの動植物が観察されています。一方手賀沼周辺では更に宅地化が進み貴重な斜面林が削られ、手賀沼の景観が損なわれています。我孫子市としても緑地の保全には力を入れており、市条例を改正するようですが地権者の協力無しでは難しいことです。隣国、中国の長江大洪水も上流の森林開発が原因ともいわれ、今後、広大な面積を植林するには大変な労力と時間がかかるでしょう。昔の日本人の考えからすると神の祟り(自然の報復)といえます。人類の経済活動によるエントロピーの増大は地球の気温の上昇や空気の汚れをもたらしたのに対して、植物の生産活動は自然界のサイクルを保っています。樹木の重要性を再認識したいものです。ささやかであっても、土のあるところには植物があるように心がければ、町全体に緑のつながりができるでしょう。今年は、家族の記念日などに期を一本植えてみませんか。

No147 (3-4 月号)

仲さんを惜しむ (柴田五郎)

12月16日中ひろしさんがなくなった。あまりに以外、突然で驚いてしまった。惜しい人を亡くした。残念でならない。中さんにはこんな思い出がある。次を読んでいただきたい。これは平成4年12月16日の「イースト情報紙」に掲載された私の拙文です。今読み直し、しみじみ当時を回想している。(中略)

改めて中さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。 合掌

No148 (5-6 月号)

事務局が替わりました

4月から事務局担当が西巻幹事から島崎副会長にかわりました。

退任の挨拶 (西巻実)

前任の中尾さんが急逝され、突然の指名で五里霧中で始めてから8年半、皆様にご迷惑のかけどおして終わりました。お詫びとともに感謝の念でいっぱいです。これからもよろしくお願いいたします。

定期総会

今年は役員改選の年に当たります。会長に木村稔氏、副会長に飯泉仁、島崎純造の両氏が再任されました。また監査役に現在臨時監査役をされている大久保陸夫、村井治の両氏が就任されました。

No149 (7-8 月号)

二つの新規事業について (木村稔)

- 1) 千葉県環境財団よりビオトープの鳥類調査を当会が委託され、5月より調査を開始。
- 2) 岡発戸の谷津田に一区画を借りて開水面を作り、各種生物の観察をします。

1999年行事 : 「僕と遊んでちょうだい」パートI探鳥(栃木県真岡市井頭公園、鬼怒川河川敷) 「僕と遊んでちょうだい」パートII探鳥(小見川、神之池、波崎港、銚子、君ヶ浜)、沼南町中央公民館の探鳥会のお手伝い、庭に鳥を呼ぶ展示、探鳥セミナー、山中湖探鳥、銚子港のカモメに出会う会、東京港野鳥公園で春の渡り鳥と出会う、筑波山探鳥、バードウィーク探鳥、小見川・浮島探鳥、岡発戸の草刈と池作り、探鳥セミナー(高尾山で夏鳥

の囀りを聞く)、裏磐梯探鳥、手賀沼ふれ愛フェスタ、映写会と納涼会(サンズイの酉を愛する精神)、岡発戸の観察記録(時間を決めず各自の参加)、多摩川河口の探鳥、手賀沼清掃、小櫃川探鳥、手賀沼ふれあい清掃、親水広場の野鳥観察スクールのお手伝い、全日本バードカービングフェスティバル9.9にあわせた「鳥を庭に呼ぶ」展示と市民手賀沼探鳥、古利根沼清掃、探鳥セミナー、いも煮会

1999年初参加者：井上正、井上智、谷山晴男、川田光男、遠藤織太郎

2000年(No152~No157)

No152(1-2月号)

明けましておめでとうございます (木村稔)

今年の初夢は、夕暮れの雲の中に次々と現れる雁行や月影をよぎる雁のシルエットを手賀沼で見ているというものです。秋に見た伊豆沼(宮城県)の風景が印象的だったのです。本年度より北千葉導水路第二機場からの手賀沼注水が本格運転になります。最大毎秒10tの水が放水された場合、沼の水は希釈されて、CODは半減し、流速は現在の倍になると予想されています。この注水による水質の変化が水鳥にどう影響してくるか注意深く見守りたいと思います。手賀沼ビオトープの鳥類調査は初年度後半に入っています。山階鳥類研究所の協力を得ながら一年間の調査をまとめます。生物の生息ゾーンではカイツブリ、オオバン、オオヨシキリ、ヨシゴイ等の繁殖が期待できます。菅井さんのご好意でお借りした休耕田の整備も一応形が整い谷津田観察の絶好の拠点になりました。かわせみ池の周辺で昨年春から野鳥は53種観察されカワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイの餌場になっています。蝶は22種、トンボが18種見られています。今年はこの池からどれだけの数のトンボが発生するか楽しみです。植物は年間を通して絶えることなく様々な花が咲き実をつけました。春の菜の花、スミレから晩秋のセイタカアワダチ草まで、誘引された昆虫とともに楽しませてもらいました。今年、シーズン毎に催しを企画して、多くの人達に谷津の自然を楽しんでもらいたいと思っています。その他、休耕田を利用した渡り鳥の中継地作りや、鳥類調査、地域団体等会員の方々の協力が益々必要となってきます。環境レンジャーを中心に生物環境についての知識を高めながら、楽しい仲間と今年一年の行事に参加してください。

鳥だよりの掲載基準を変更

No154(5-6月号)

定期総会

4月9日定期総会が市民会館で開催され、会則改正案が承認また決議されました。

メーリングリスト開設 (飯泉仁)

この1月30日に電子メールのメーリングリスト「我孫子バードネット」を開設しました。

現在、当会の有志、我孫子市関係者などが加入し、1ヶ月90通前後の電子メールによる「観察情報や鳥にまつわるやり取りをしています。(後略)

No155(7-8月号)

我孫子野鳥を守る会 創立30周年記念事業小委員会からのお願い

会は、平成14年(2002)に創立30周年の節目を迎えるにあたり、5月14日の幹事会で上記の小委員会が構成されました。委員には梅村、飯泉(久)、染谷、田丸が選任されました。(後略)

“鳥だより”にEメール開設 (赤尾完)

この度“鳥だより”受付がEメールを開設しました。いままではハガキだけの投稿受付でご不便をおかけしましたが、これからは下記アドレスへメールください。(後略)

No157 (11-12 月号)

長寿会員の近況 (田丸喜昭)

取手市の寺田義雄さんは、90歳を越されてお元気に過ごされ、155号には俳句の投稿を頂きました。我孫子市の高橋敏夫さんは12月に90歳になられ、現在も現役の鳥見族でご活躍です。船橋市の三神鶴吉さんは、来年3月に90歳になられ、お住まいの船橋丸山サンクチュアリのリーダーとしてご活躍中です。我孫子の還暦を過ぎたばかりの青年会員も、大先輩の後塵を拝しながら、それを見習い元気に会の活動を盛り上げていかなければと感じるこの頃です。

2000年行事 : 「僕と遊んでちょうだい」パートI探鳥(栃木県真岡市井頭公園、鬼怒川河川敷)、「僕と遊んでちょうだい」パートII探鳥(小見川、神之池、波崎港、銚子)、2探鳥セミナー、裏妙義・軽井沢探鳥、エンジョイ・ウィークエンド探鳥会の手伝い、筑波山探鳥、谷津干潟探鳥、エンジョイ手賀沼市民探鳥会、小見川・浮島探鳥、戸隠探鳥、探鳥セミナー、映写会と高橋敏夫さんの卒寿を祝う会、夜の観察会ホテルの夕べ、霞ヶ浦周辺にシギ・チドリを探す会、多摩川河口の探鳥、ミステリーツアー探鳥会、手賀沼清掃、沼南町立風早中学校の探鳥指導、手賀沼ふれあいフェスタ、幹事研修探鳥会(新潟県福島潟) 高野山小学校「総合的学習」のお手伝い、千葉テレビの取材に協力、バードフェスティバル2000、ふれあい手賀沼清掃、水辺探検隊の探鳥指導、いも煮会

2000年初参加者 : 榎本右、岡本信夫、田中功

2001年 (No158~No163)

No158(1-2月号)

明けましたおめでとうございます (木村稔)

新世紀を迎えるとともに、我孫子も発足30周年を迎えます。会員お皆様から有意義で楽しい記念行事の企画がたくさん寄せられています。昨年度は月例探鳥会と水鳥カウントを中心に我孫子市鳥の博物館、山階鳥類研究所、Enjoy手賀沼、バードフェスティバル2000等の共催行事、美しい手賀沼を愛する市民の連合会主催、ふれあいフェスタ、環境フォーラムの行事への参加、近隣自治体の探鳥会やビオトープ鳥類調査、自主的におこなっている四つ池、梶池鳥類調査等のかなりの行事がありました。更に昨年度から千葉県環境財団からの委託により、市内4ヶ所(上沼田、日秀、岡発戸、江蔵地)の水辺環境の鳥類調査(月1回)が加わり年末のふれあい清掃まで忙しい日程になりました。皆様のご協力ありがとうございました。一方市民として我孫子環境基本計画(案)市民委員会に多くの当会員が参加して、意見を述べています。環境基本計画(案)には、我孫子に飛来する野鳥の生息環境を守り、多様な生態系を保全することが盛り込まれています。それには農環境を含めた水辺空間の保全が必要であります。手賀沼ビオトープ造成にかかった費用を考えると、現在残っている自然環境は大変な財産です。守ることはつくることより難しいといわれます。失われた自然は二度と再生できません。心の豊かさを求める時代に、自然は一番大切なものです。我孫子の「鳥類の基礎的な資料」を提供することで少しでも貢献できるようがんばりましょう。

2001年行事 : 「僕と遊んでちょうだい」パートI探鳥(井頭公園、鬼怒川河川敷)、「僕と遊んでちょうだい」パートII探鳥(小見川、神之池、波崎港)、我孫子市民との合同手賀沼探鳥会、NHK「BS列車ドーム君号が行く」ロケ手伝い、沼南町市民探鳥会、山中湖探鳥、エンジョイ・ウィークエンド探鳥会(少年自然の家) 春の銚子港・波崎新港探鳥、岡発戸谷津田観察、筑波山探鳥、ENJOY手賀沼バードウィーク手賀沼探鳥、小見川・浮島探

鳥、八千穂高原探鳥、映写会と納涼会、ホタルの夕べ、谷津干潟探鳥、富津岬タカの渡り観察、東町・河内町探鳥、手賀沼ふれあいフェスタ、第1回ジャパンバードフェスティバル、手賀沼ふれあい清掃、水辺探検隊探鳥指導、いも煮会、涸沼探鳥
2001年初参加者：飯島博、小林寿美子、黒田力、川上貢

2002年(No164~No169)

No164(1-2月号)

明けましておめでとうございます (木村稔)

昨年11月で千葉県環境財団より委託された我孫子市谷津田・水田等自然環境調査(岡発戸、上沼田、日秀、江蔵地の鳥類)が終了しました。1年間の調査ご苦労様でした。3月には報告書がまとめられることになっています。調査対象の鳥類・植生・昆虫・両生類・は虫類の中には千葉県のレッドブックリストの重要保護生物や要保護生物に含まれるものもあり、今後の自然環境保全に役立つ基礎データになると思います。湿地や水目は多様な生物の生息の場として重要さだけでなく、経済的価値が数値でも表されるようになり、世間の認識も変わりつつあります。その意味で我孫子市が自然環境調査を行い、岡発戸・谷津のミュージアム事業構想を発表したことは評価できると思います。特に市内唯一の谷津田は農業と自然を学ぶ場として、地権者の方々にも協力をお願いして是非残してもらいたいものです。ちなみに観察された鳥は50種を超え、植物は450種が確認されています。一方手賀沼については昨年11月に第一回バードフェスティバルが開催され、手賀沼を望む親水広場にかけてない大勢の人が訪れ、鳥をテーマにした数々のイベントを楽しみ、手賀沼の広い水辺空間を体験してもらいました。しかし手賀沼は水鳥の多い沼だと感じた人がどれだけいたでしょうか。北千葉導水路からの放水は直接水鳥の増加には結びつかないようです。手賀沼ピオトープ造成による植生の復活や動物の多様性を見るとき水辺のアシやマコモの群生が大切であると強く感じます。我孫子市の鳥オオバンの減少を食い止めるためにも、第二、第三のピオトープが望まれます。さて本年は、我孫子が創立30周年を迎え、3月には記念行事も行われます。重ねておめでとうございます。皆様が健康で、存分に鳥を楽しめる戸誌であることをお祈りします。

No166(5-6月号)

我孫子野鳥を守る会30周年を迎えてのご挨拶 (木村稔)

会員の皆様、我孫子野鳥を守る会発足30周年おめでとうございます。市長をはじめ、来賓の皆様ご出席ありがとうございます。1972年3月に我孫子市の文化団体として認定を受けて以来30年が経ちました。この30年間市民団体として我孫子市からは変わらぬ財政的ご支援と会の活動の場を提供していただきました。山階鳥類研究所には所長の黒田先生をはじめ、所員の先生方に色々と鳥学を教えていただきました。因みにお世話になった黒田先生はこの度山階鳥類研究所を引退されることになり、後任は山岸哲先生が所長になられますので、その時お目にかかれると思います。我孫子市鳥の博物館には我が家のように親しくさせていただいています。美しい手賀沼を愛する市民の連合会のご支援もありました。そして私達のフィールド、手賀沼があります。こういう恵まれた環境の中ではありますが、やはり会員の皆様が会の運営、会の行事や地域のボランティア活動に積極的に参加していただいたことが、30年の継続につながりました。あらためて感謝申し上げます。30年は大変長い年月です。我孫子野鳥を守る会20周年のご挨拶の中でも20年は長い年月です、と申し上げた記憶がありますが、それからさらに10年経ちました。20周年の記念写真の顔の中にも鬼籍に入られた方がいらっしやいます。この場に見えないのは残念ではありますが、野鳥が縁で仲間として楽しい時間を共有できた思い出を大切にしたいと思います。この10年コンピューターの導入で情報社会は飛躍的に発展し、私たちも野鳥情報や会報出

版でその恩恵を受けています。一方で環境破壊は進み、人々のモラルも怪しくなっています。我孫子野鳥を守る会の会則に「野鳥を通じて自然保護に努め、人と鳥が共存する環境づくりを行い、あわせて会員の親睦を図る」とありますが、30年経った現在それらはますます大切なものになっています。これからも会の活動の中でビオトープ作りや、谷津田の保存など環境作りに関わりながら自然を師とする気持ちを忘れず、皆様と一緒に美しい手賀沼を次世代に引き継ぎたいと願っています。

我孫子野鳥を守る会創立30周年記念式典パーティー（田丸喜昭）

3月23日（土）午後6時より記念式典とパーティーが、我孫子市民プラザホールで、我孫子市長、市議会議長、教育長、他の来賓計9名と会員参加者48名をえて盛大に開催されました。会員は名札と記念バッジを着用し、来賓にも受付でこれ他を着用していただきました。開会の辞、来賓紹介、会長挨拶に続き、次の方々に、感謝状と記念品が贈呈されました。（敬称略）

会の設立と長期間の活動ならびに会報編集
会の設立と長期間の活動
会報編集
会報編集
事務局担当
会報発送
鳥情報・データベース
カウント

高橋 敏夫
畑 幸正
首藤 美恵子
梅村 康之
西巻 実
中尾 米子
赤尾 完
飯泉 仁・久美子

市長と議長より祝辞を頂戴した後、全員の記念撮影が行われました。引き続き、教育長のご発声で全員の高らかな乾杯で、なごやかな立食形式の記念パーティーに入りました。探鳥会では見かけない背広姿の出席会員がお互いに、「見違えちゃったヨ」などの歓談が続き、時間の経過と、「サンズイの酉」の摂取量が増えるにつれ、会はますます盛り上がりました。（アトラクション 略）会場には、飲み物と食べ物も充分にあり、参加者全員で30年の歴史を振り返りながら親睦を深め、午後8時をまわり、島崎副会長の謝辞、万歳、閉会の辞で行事は無事終了し、参加者は楽しげに家路につきました。

No167（7-8月号）

我孫子野鳥を守る会創立30周年記念講演会（平成14年5月12日）（田丸喜昭）

山階鳥類研究所の新任の山岸哲博士を迎えて、予定定員をはるかに上回る会員42名と一般出席者122名、計164名（その他受付で登録しなかった出席者もいます）をもって「鳥たちの結婚」をテーマとする記念講演会が水の館で開催され、非常な成功のうちに無事終了することができました。講演に先立ち、木村会長が挨拶と講師のご紹介をし、講演終了後、飯泉副会長が謝辞と閉会の辞を述べました。一般参加者は、広い各地より参加され、市町村別では、我孫子市46名、柏市20名、松戸市11名、取手市6名、龍ヶ崎市6名等々で、遠くは宇都宮市や横浜市から来られた方もいます。この行事開催に協力いただいた、山岸先生、諸関係団体の皆様、会の幹事と会員の皆様に深く感謝いたします。（中略）当日午前中は、綿界も、ENJOY手賀沼行事のうち市民探鳥会を担当しましたので、怪異の午後の講演会への出席は探鳥スタイルでした。（後略）

No169（11-12月号）

訃報

会員であった中尾米子さん（我孫子市湖北台）がご病気のため、去る10月14日ご逝去されました。心からご冥福をお祈り致します。

2002年行事：「僕と遊んでちょうだい」パートI探鳥（栃木県真岡市井頭公園、鬼怒川河川

敷)「僕と遊んでちょうだい」パートⅡ探鳥(小見川、神之池、波崎港)、冬の蓼科高原に赤い鳥を探す会、春の銚子港・波崎新港探鳥、谷津田観察会、東京湾シギ・チ探鳥、筑波山探鳥、バードウイーク手賀沼探鳥、裏磐梯で夏鳥に出会う会、小見川・浮島探鳥、映写会と納涼会、ホタルの夕べ、水田のシギ・チ探鳥、第2回ジャパンバードフェスティバル、琵琶湖研修探鳥、手賀沼ふれあい清掃、手賀沼環境教室の探鳥指導、水辺探検隊の探鳥指導、いも煮会、潤沼探鳥

2002年初参加者：常盤孝義、柴本三弘、柴本法子、北原建郎、野口紀恵、野口紀子、米田嵩明、米田洋斗、村瀬和則、小島昭江、小川克子

2003年(No170~No175)

No170(1-2月号)

明けましておめでとうございます (木村稔)

平成14年も皆さんの活躍で、月例探鳥会等の予定年間行事のほか受託鳥類調査、小・中学校の授業協力、千葉県環境財団からの鳥の観察指導など沢山の事業を無事に終了することが出来ました。特に昨年は我孫子野鳥を守る会発足30周年にあたり記念行事が行われました。山階鳥類研究所の山岸哲新所長を迎えての記念公演や我孫子野鳥を守る会創設以来、当会の発展に貢献、援助して下さった方々に感謝するパーティが盛大に催されました。加えて30周年記念事業として「手賀沼の鳥」パートの編纂が進められています。11月16・17日に開催された「ジャパンバードフェスティバル2002」は年々参加団体が増え、内容も豊富になってきました。当会が参加した展示・研究発表の部門では「オオバン賞」を受賞することができ、記念すべき30周年の有終の美を飾りました。また、私たちの大切なフィールドである手賀沼が27年の永きにわたる水質全国ワースト1の看板を下ろすことが決定したことも慶事といえるでしょう。ちなみに、2003年は「国際淡水年」で日本で国際会議が開かれます。さて、平成15年を向かえ、今年も野鳥とのふれあいを楽しみながら私達のできる範囲で社会への貢献も続けていきたいと思えます。大変お世話になった前山階鳥類研究所所長黒田長久博士の鳥との関わりの言葉に「愛(友情)・知(理性)・和(絆)」があります。鳥にたいする知識、愛情から発展した、「和」・楽しみながらも保護・共存が大切な時代です。私達も知識の充実をはかり鳥を愛する人との交流を広めながら、人を含めた生物にとってのより良い環境の保全・復元を目指しましょう。我孫子野鳥を守る会の30周年の経験、知識、技術を生かしたいと思えます。「手賀沼の鳥」の上梓や我孫子市の「岡発戸・都部谷津ミュージアム構想」への協力は「和」へ通じる一步になるでしょう。皆様にとって健康で沢山の野鳥との出会いがある1年になることをお祈りします。

No173(7-8月号)

トキとコウノトリの野生復帰に思う (遠藤織太郎)

私の住むまちには全国で唯一の「鳥の博物館」ある。このまちには山階鳥類研究所が移ってきてから18年になるが、その6年後に「市立鳥の博物館」としてオープンした。私は大学定年後、ひよんなことから、この博物館の運営に協力することになり、日本の鳥・世界の鳥の剥製を度々見る機会に恵まれるようになった。もちろん、トキやコウノトリもこの剥製鳥の中ですぐ見出すことができる。これが機縁となり私はバードウォッチングを始め、月に一回の手賀沼周辺での探鳥会である。しかし、気になることは四季を通じて鳥の数が年々減り続けていることである。最近では50年前の100分の1に減っていることである。しかも、日本における鳥の絶滅種はこの間に67種にものぼり、この傾向は加速されているというのである。日本を代表するトキは佐渡の新穂村で絶滅寸前の1981年に最後の5羽が、またコウノトリは兵庫県豊岡市で1965年に生き残った野生の4ペアが、そ

れぞれ捕獲、保護され、人工増殖が始められた。しかし、これら国内の野生種からの増殖は望めず、その後中国やロシアからの協力を得て、現在はトキが 25 羽(注 1)、コウノトリは 107 羽(注 2)に増えている。今年になり、期せずして佐渡のトキ、豊岡市のコウノトリの野生復帰計画が、関係機関から公表された。これによれば、数年後には野生のトキ、コウノトリが水田地帯や森林に自由に羽ばたき、繁殖もできてその勇姿を誰でもが観察できるようにするというのである。しかしそれには大きな関門があり、野生化を手助けする生息環境の改善が急務であるとしている。IUCN(国際自然保護連盟)によれば、野生復帰の条件は「その種が絶滅した要因を可能な限り除去する。人間活動で環境破壊が進んだ場所は、生息地回復事業を済ませておく」(注 3)ようもとめている。農業の近代化を進めてきたいまの水田にはメダカもドジョウも蛙もいない。松林も荒れ放題である。JAS 法に基づく有機認証水田ははまだ 1%にも満たないのである。しかし、有機栽培した水田は物質循環を取り戻し生態系ピラミッドは見事に再生するのである。(後略)

地域環境保全功労者表彰を受賞

環境省では環境月間(6月行事の)一環として、環境保全に特に顕著な功績があった全国の個人・団体に対し環境大臣による表彰を行っています。当会は本年度「地域環境保全功労者」として大臣賞を受賞しました。

No174 (9-10月号)

手賀沼の鳥編纂委員会からのお願い (飯泉仁)

設立 30 周年記念行事の一つとして手賀沼の鳥 (仮称) を編纂すべく、2002 年 1 月に編纂委員会が発足し、毎月 1 回以上の会議・編纂作業を積み重ねています。鳥類目録編纂グループ(向井章雄・佐々木隆・梅村康之)、水鳥個体数調査報告グループ(間野吉幸・小玉文夫)、生息が危惧される鳥類報告グループ(飯島博・染谷迪夫・飯泉仁)の 3 つの編纂グループに分かれて作業を進めています。(後略)

2003 年行事：新年探鳥会 ルート 1(井頭公園、鬼怒川周辺(栃木県真岡市) ルート 2(神之池、波崎・銚子海岸) 冬の軽井沢探鳥会、谷津干潟探鳥会、筑波山探鳥会、高尾山探鳥会、小見川・浮島探鳥会、富士山お中道・樹海の夏鳥に出会う会、映写会、納涼会、ホタルの夕べ、東町・利根町の水田を訪ねる会、多摩川河口探鳥会、筑波山朝日峠でタカの渡りを探す会、手賀沼探鳥会と芋煮会、第 3 回ジャパンバードフェスティバル 2003、公民館学級市民カレッジ雑学コース、市民手賀沼探鳥会、第 14 回バードウィーク探鳥会、手賀沼クリーン作戦、手賀沼水辺の探検隊指導、第 13 回手賀沼ふれあい清掃

ほーほーどり 200号記念 別冊

発行 2008 年 1 月 1 日

発行人 我孫子野鳥を守る会 会長 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel 04 7182 3972

振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000 円(大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料)